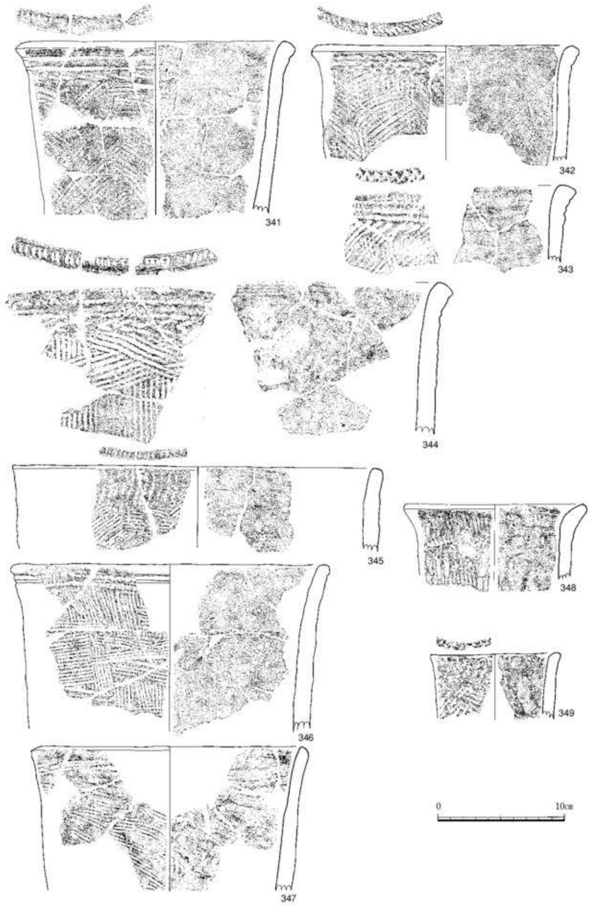
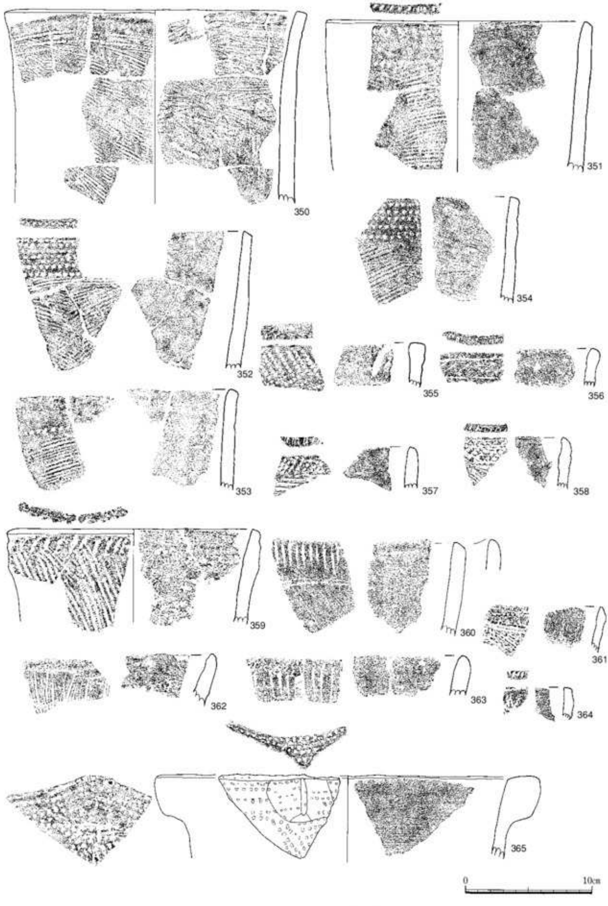
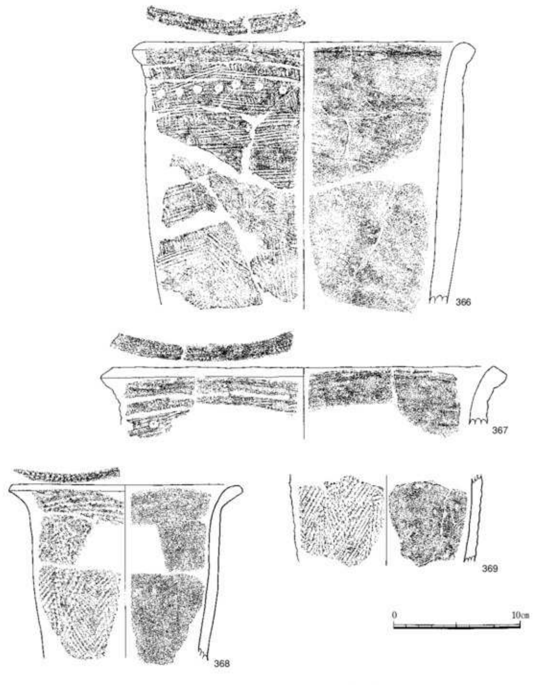


第44図　V類土器（８）


350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
0
10cm

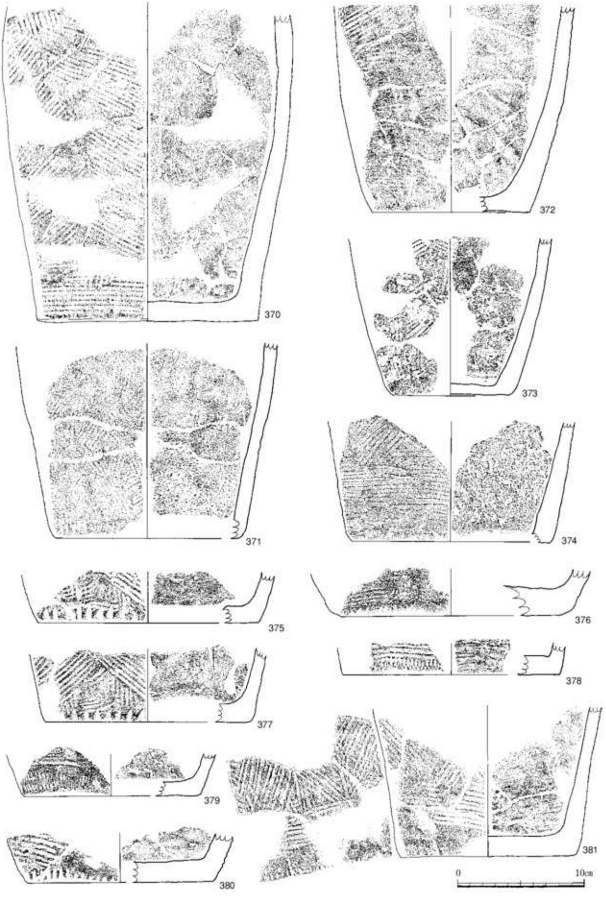
第45図　Ｖ類土器（９）



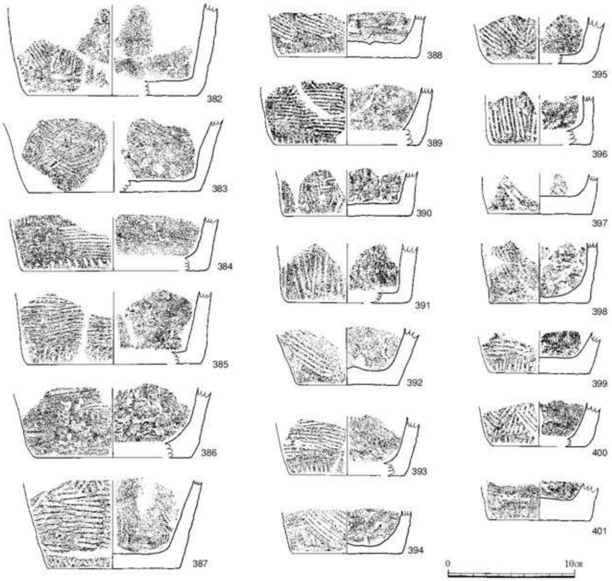
第46図　Ｖ類土器（10）

375～380は底部である。375は，綾杉状の貝殻条痕が確認でき，底部外面周囲には，１cmほどの深い沈線が縦位に施されている。376～380は貝殻条痕及びヘラによる浅い沈線が縦位に確認できる。

381～401は，底部で，その多くが貝殻による条痕文，ヘラによる縦位の沈線が施されている。387の内面，401の内底面には，指圧痕が確認できる。



第47図　V類土器（11）



第48図　Ｖ類土器（12）

Ｖ類土器観察表３

挿図番号	番号	出土区	層位	部位	色調 内	色調 外	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	外面	内面	備考
第41図	306	H−6	Ⅳ	口縁〜胴部	黄褐	橙	○	○			良	貝殻刺突文（横位・斜位）条痕文（綾杉状）	ナデ	
	307	H−6	Ⅳ	口縁〜胴部	橙	橙	○	○			良	貝殻刺突文（横位・斜位）条痕文	ナデ	口唇刻目
	308	H−6	Ⅳ	口縁部	にぶい黄	にぶい黄橙	○	○			良	貝殻刺突文（横位・斜位）条痕文（綾杉状）	ナデ	口唇刻目
	309	H−5	Ⅳ	口縁〜胴部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文（横位・斜位）条痕文	ナデ	口唇刻目
	310	H−6	Ⅳ	口縁部	にぶい黄橙	黄褐	○	○			良	貝殻刺突文（横位・斜位）条痕文（綾杉状）	ナデ	口唇刻目
	311	H−5･6･7	Ⅳ	口縁〜胴部	にぶい黄褐	褐	○	○			良	貝殻刺突文（横位・斜位）条痕文（綾杉状）	ナデ	口唇刻目
	312	G−7,H−6	Ⅳ	口縁〜胴部	浅黄	浅黄	○	○			良	貝殻刺突文（横位・斜位）条痕文（綾杉状）	ナデ	口唇刻目
	313	G−6,H−7	Ⅳ	口縁〜胴部	にぶい橙	にぶい褐	○	○			良	貝殻刺突文（横位・斜位）	ナデ	口唇刻目
第42図	314	G−7,H−7	Ⅳ	口縁部	赤褐	暗赤褐	○	○			良	貝殻刺突文（横位）条痕文	ナデ	口唇刻目
	315	H−6	Ⅳ	口縁部	にぶい黄褐	黄灰	○	○			良	ヘラ状工具による刺突文・貝殻刺突文（横位）条痕文（綾杉状）	ナデ	口唇刻目
	316	H−6	Ⅳ	口縁部	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○			良	貝殻刺突文（横位）条痕文	ナデ	口唇刻目
	317	H−6	Ⅳ	口縁部	黄褐	褐	○	○			良	貝殻刺突文（横位）	ナデ	口唇刻目
	318	H−7	Ⅳ	口縁部	褐	にぶい褐	○	○			良	貝殻刺突文（横位）条痕文	ナデ	口唇刻目
	319	H−7	Ⅳ	口縁部	暗オリーブ褐	褐	○	○			良	貝殻刺突文（横位）条痕文（綾杉状）	ナデ	口唇刻目
	320	H−7	Ⅳ	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○			良	貝殻刺突文（横位）	ナデ	口唇刻目
	321	H−6	Ⅳ	口縁部	褐	にぶい橙	○				良	貝殻刺突文（横位）条痕文	ナデ	口唇刻目
	322	H−7	Ⅳ	口縁部	オリーブ黒	にぶい黄	○	○			良	貝殻刺突文（横位）条痕文	ナデ	口唇刻目
	323	H−7	Ⅳ	口縁部	暗灰黄	明褐	○	○			良	貝殻刺突文（横位）条痕文（綾杉状）	ナデ	
	324	H−7	Ⅳ	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○			良	貝殻刺突文（横位）	ナデ	口唇刻目
	325	H−6	Ⅳ	口縁部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文（横位）条痕文（綾杉状）	ナデ	口唇刻目
	326	H−7	Ⅳ	口縁部	灰オリーブ	にぶい黄	○	○			良	ヘラ状工具による刺突文・貝殻刺突文（横位）条痕文	ナデ	口唇刻目
	327	H−4	Ⅳ	口縁部	明黄褐	褐	○	○			良	貝殻刺突文（横位）条痕文	ナデ	
	328	H−7	Ⅳ	口縁部	にぶい赤褐	にぶい褐	○	○			良	貝殻刺突文（横位・斜位）	ナデ	口唇刻目
	329	H−7	Ⅳ	口縁部	オリーブ黄	明黄褐	○	○			良	貝殻刺突文（横位）	ナデ	

Ⅴ類土器観察表 4

挿図番号	番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	外面	内面	備考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第43図	330	H−6	Ⅳ	口縁部	明褐	明赤褐	○	○			良	貝殻刺突文（横位・斜位）条痕文	ナデ	口唇刻目
	331	H−6·7	Ⅳ	口縁～胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文（横位・斜位）条痕文	ナデ	口唇刻目
	332	H−6·7	Ⅳ	口縁～胴部	明赤褐	にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文（横位）条痕文	ナデ	口唇刻目
	333	H−6·7	Ⅳ	口縁～胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○			良	貝殻刺突文（横位）条痕文	ナデ	口唇刻目
	334	H−7	Ⅳ	口縁～胴部	にぶい橙	にぶい褐	○	○			良	貝殻刺突文（横位）条痕文（綾杉状）	ナデ	口唇刻目
	335	H−7	Ⅳ	口縁部	にぶい黄橙	褐	○	○			良	貝殻刺突文（横位・斜位）条痕文（綾杉状）	ナデ	口唇刻目
	336	H−6·7	Ⅳ	口縁部	にぶい黄褐	灰オリーブ	○	○			良	貝殻刺突文（横位・斜位）	ナデ	口唇刻目
	337	H−6	Ⅳ	口縁～胴部	明赤褐	赤褐	○	○			良	ヘラ状工具による刺突文・条痕文	ナデ	口唇刻目
	338	H−6	Ⅳ	口縁～胴部	にぶい赤褐	にぶい黄褐	○	○			良	貝殻刺突文（横位）条痕文	ナデ	口唇刻目
	339	H−6	Ⅳ	口縁～胴部	にぶい黄褐	橙	○	○			良	貝殻刺突文（横位）条痕文	ナデ	口唇刻目
	340	H−4,7	Ⅳ	口縁部	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○			良	貝殻刺突文（横位）条痕文（綾杉状）	ナデ	口唇刻目
第44図	341	H−7	Ⅳ	口縁～胴部	にぶい褐	褐	○	○			良	貝殻刺突文（横位）条痕文（綾杉状）	ナデ	口唇刻目
	342	H−5	Ⅳ	口縁～胴部	にぶい褐	明黄褐	○	○			良	貝殻刺突文（横位）条痕文（綾杉状）	ナデ	口唇刻目
	343	H−6	Ⅳ	口縁部	にぶい黄褐	明赤褐	○	○			良	貝殻刺突文（横位・斜位）条痕文（綾杉状）	ナデ	口唇刻目
	344	H−6	Ⅳ	口縁～胴部	褐	黄褐	○	○			良	貝殻刺突文（横位・斜位）条痕文（綾杉状）	ナデ	口唇刻目
	345	H−7	Ⅳ	口縁部	にぶい黄橙	明黄褐	○	○			良	貝殻刺突文（横位）条痕文（綾杉状）	ナデ	口唇刻目
	346	H−4	Ⅳ	口縁～胴部	黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	貝殻刺突文（横位）条痕文（綾杉状）	ナデ	
	347	H−6·7	Ⅳ	口縁～胴部	褐	暗褐	○	○			良	貝殻刺突文（横位）条痕文（綾杉状）	ケズリ後ナデ	
	348	H−5,7	Ⅳ	口縁部	明赤褐	明赤褐	○	○			良	条痕文		指圧痕（外面）
	349	H−7	Ⅳ	口縁部	灰オリーブ	黄褐	○	○			良	貝殻刺突文（横位）条痕文（綾杉状）	ナデ	口唇刻目
第45図	350	H−6·7	Ⅳ	口縁～胴部	にぶい赤	赤褐	○	○			良	貝殻刺突文（横位）条痕文（綾杉状）		
	351	H−7	Ⅳ	口縁～胴部	にぶい橙	にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文（横位）条痕文（綾杉状）	ナデ	口唇刻目
	352	H−6·7	Ⅳ	口縁～胴部	にぶい黄褐	にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文（横位）条痕文（綾杉状）	ナデ	口唇刻目
	353	H−6	Ⅳ	口縁部	にぶい黄橙	浅黄橙	○	○			良	貝殻刺突文（斜位）	ナデ	
	354	H−7	Ⅳ	口縁部	明赤褐	褐	○	○			良	貝殻刺突文（横位）条痕文（綾杉状）	ナデ	
	355	H−6·7	Ⅲ·Ⅳ	口縁部	赤褐	赤褐	○	○			良	貝殻刺突文（横位）条痕文（綾杉状）	ナデ	口唇刻目
	356	H−6	Ⅳ	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○			良	貝殻刺突文（横位・斜位）	ナデ	口唇刻目
	357	H−6	Ⅳ	口縁部	黄褐	にぶい黄	○	○			良	貝殻刺突文（斜位）条痕文	ナデ	口唇刻目
	358	H−6	Ⅳ	口縁部	褐	褐	○	○	○		良	貝殻刺突文（斜位）条痕文	ナデ	口唇刻目
	359	H−6	Ⅳ	口縁部	にぶい褐	灰褐	○	○			良	貝殻刺突文（斜位）条痕文	ナデ	口唇刻目
	360	H−6	Ⅳ	口縁部	明褐	にぶい黄橙	○	○			良	貝殻刺突文（縦位）条痕文	ナデ	
	361	H−7	Ⅳ	口縁部	灰褐	褐	○	○	○		良	貝殻刺突文（斜位）	ナデ	口唇刻目
	362	H−7	Ⅳ	口縁部	オリーブ褐	暗灰黄	○	○			良	貝殻刺突文（横位）条痕文	ナデ	
	363	H−5·6	Ⅳ	口縁部	橙	橙	○	○			良	貝殻刺突文（縦位）	ナデ	
	364	H−7	Ⅳ	口縁部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文（横位・斜位）	ナデ	口唇刻目
	365	H−7	Ⅳ	口縁部	にぶい明赤褐	暗オリーブ褐	○	○			良	貝殻刺突文（横位）	ナデ	口縁突起・口唇刻目
第46図	366	H−7	Ⅳ	口縁～胴部	暗灰黄	にぶい黄褐	○	○			良	竹管文・条痕文（綾杉状）	ナデ	口唇刻目
	367	H−7	Ⅳ	口縁部	明黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	竹管文・条痕文	ナデ	口唇刻目
	368	H−6	Ⅳ	口縁～胴部	にぶい黄褐	褐	○	○			良	貝殻刺突文（羽状）ナデ消し後条痕文	ナデ	口唇刻目
	369	H−6	Ⅳ	胴部	浅黄	にぶい黄褐	○	○			良	貝殻刺突文（羽状）ナデ消し後条痕文	ナデ	
第47図	370	H−6·7	Ⅳ	胴～底部	黄褐	明褐	○	○	○		良	貝殻条痕文（綾杉状）	ナデ	
	371	G·H−6	Ⅲ	胴～底部	暗褐	にぶい褐	○	○			良	貝殻条痕文（綾杉状）ヘラによる沈線	ナデ	
	372	H−6·7	Ⅳ·Ⅴ	胴～底部	暗褐	暗褐	○	○	○		良	貝殻条痕文（綾杉状）	ナデ	
	373	H−7	Ⅳ	胴～底部	灰褐	橙	○	○			良	貝殻条痕文（綾杉状）	ナデ	
	374	H−6	Ⅳ	胴～底部	黒褐	にぶい褐	○	○			良	貝殻条痕文（綾杉状）ヘラによる沈線	ナデ	
	375	H−6	Ⅳ	底部	暗灰黄	にぶい黄橙	○	○			良	貝殻条痕文（綾杉状）ヘラによる沈線	ナデ	
	376	H−7	Ⅳ	底部	にぶい赤褐	赤褐	○	○			良	貝殻条痕文・ヘラによる沈線	ナデ	
	377	H−6·7	Ⅳ	底部	にぶい黄橙	橙	○	○			良	貝殻条痕文（綾杉状）ヘラによる沈線	ナデ	
	378	H−6	Ⅴ	底部	明褐	にぶい褐	○	○			良	貝殻条痕文・ヘラによる沈線	条痕・ナデ	
	379	H−7	Ⅳ	底部	灰黄褐	灰黄褐	○	○			良	貝殻条痕文・ヘラによる沈線	ナデ	
	380	H−7	Ⅳ	底部	赤褐	赤褐	○	○			良	貝殻条痕文（綾杉状）ヘラによる沈線	ナデ	
	381	H−5·6	Ⅳ	胴～底部	明赤褐	褐	○	○	○		良	貝殻条痕文（綾杉状）	ナデ	
第48図	382	H−7	Ⅳ	底部	暗褐	にぶい褐	○	○			良	貝殻条痕文（綾杉状）ヘラによる沈線	ナデ	
	383	H−6	Ⅳ	底部	明赤褐	明赤褐	○	○			良	貝殻条痕文（綾杉状）ヘラによる沈線	ナデ	
	384	H−7	Ⅳ	底部	にぶい褐	明褐	○	○			良	貝殻条痕文・ヘラによる沈線	ナデ	
	385	H−5	Ⅳ	底部	黒褐	にぶい褐	○	○			良	貝殻条痕文・ヘラによる沈線	ナデ	
	386	H−6	Ⅳ	底部	暗褐	にぶい褐	○	○			良	貝殻条痕文	ケズリ後ナデ	
	387	H−6	Ⅳ	底部	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	指圧痕（内面）
	388	H−6·7	Ⅳ	底部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	
	389	H−6	Ⅳ	底部	橙	橙	○	○			良	貝殻条痕文・ヘラによる沈線	ナデ	
	390	H−6·7	Ⅳ	底部	にぶい橙	黄褐	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	
	391	H−6	Ⅳ	底部	にぶい褐	にぶい褐	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	
	392	H−6	Ⅳ	底部	にぶい橙	にぶい橙	○	○			良	貝殻条痕文（綾杉状）	ナデ	
	393	H−6	Ⅳ	底部	褐	橙	○	○			良	貝殻条痕文・ヘラによる沈線	ナデ	
	394	H−6	Ⅳ	底部	にぶい黄褐	にぶい黄	○	○			良	貝殻条痕文（綾杉状）	ケズリ後ナデ	
	395	H−6	Ⅳ	底部	明黄褐	橙	○	○			良	貝殻条痕文（綾杉状）	ナデ	
	396	I−4	Ⅳ	底部	明赤褐	橙	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	
	397	H−6	Ⅳ	底部	にぶい黄	暗灰黄	○	○			良	ヘラによる沈線	ナデ	
	398	H−6	Ⅳ	底部	黒褐	褐	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	
	399	H−7	Ⅳ	底部	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○			良	貝殻条痕文・ヘラによる沈線	ナデ	
	400	H−5	Ⅳ	底部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○			良	貝殻条痕文（綾杉状）ヘラによる沈線	ナデ	
	401	H−6	Ⅳ	底部	明褐	橙	○	○			良	貝殻条痕文・ヘラによる沈線	ナデ	指圧痕（内底面）

Ⅵ類土器（第49図）

Ⅵ類土器は，貝殻刺突文を器面全面に施すものである。刺突文は斜位に施され綾杉状になる部分も見られる。402は山形になる口縁部で補修孔を有する。

403は胴部。404～406は底部である。406は規則制のある貝殻刺突文で，ヘラによる縦位の沈線文を施すものである。

Ⅶ類土器（第49図）

Ⅶ類土器はヘラによる刺突文を鋸歯状に施すものである。407・408は胴部である。

Ⅷ類土器（第49図）

Ⅷ類土器は貝殻条痕文を施すものであるが，縦位の流水文と横位の直線文が施される。409～411は胴部。412は底部である。

Ⅸ類土器（第49図）

Ⅸ類土器は貝殻条痕文を口縁部から胴部上位にかけて横位に廻らすものである。413は口縁部径17㎝を測るものである。414は胴部下半部から底部にかけてのものであるが，横位の貝殻条痕文の下から底部へかけて縦位の貝殻条痕文を施すものである。

Ⅹ類土器（第49図）

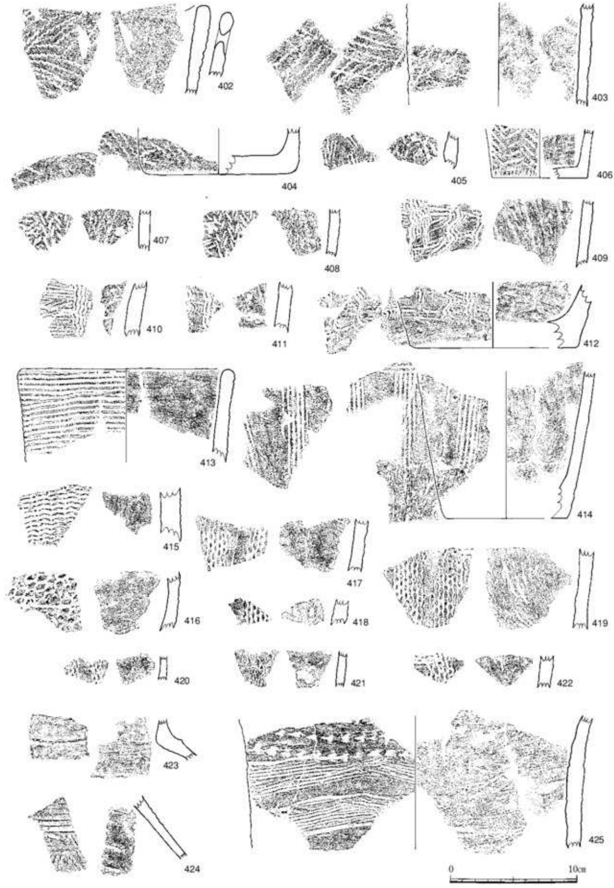
Ⅹ類土器は押型文土器である。415は山形押型文。416～419，422は楕円押型文である。417～419は同一個体と思われるもので，楕円押型文を縦に施した後に一部をナデ消して無文帯を形成している。

Ⅺ類土器（第49図）

Ⅺ類土器は420・421，423～425である。420・421は網目撚糸文を縦位に施す。423・424は頸部及び肩部に微粒突帯を廻らすもので，壺形土器になるものである。425は頸部に貝殻刺突文を廻らし，胴部には区画内に貝殻条痕を施すものである。

Ⅵ～Ⅺ類土器観察表

挿図番号	番号	出土区	層位	部位	色調 内	色調 外	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	外面	内面	類	備考
第49図	402	H−11	Ⅳ	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	貝殻刺突文	ナデ	Ⅵ	補修孔
	403	H−11	Ⅳ	胴部	褐	褐	○	○			良	貝殻刺突文	ナデ	Ⅵ	
	404	H−11	Ⅳ	底部	赤褐	にぶい赤褐	○	○			良	貝殻刺突文	ナデ	Ⅵ	
	405	J−7	Ⅳ	胴部	黒褐	暗灰黄	○	○			良	貝殻刺突文	ケズリ	Ⅵ	
	406	H−7	Ⅳ	底部	にぶい褐	灰黄褐	○	○			良	貝殻刺突文・条痕文	ナデ	Ⅵ	
	407	H−6	Ⅳ	胴部	オリーブ褐	にぶい橙	○	○			良	ヘラ沈線（鋸歯状）	ナデ	Ⅶ	
	408	H−6	Ⅳ	胴部	暗灰黄	にぶい橙	○	○			良	ヘラ沈線（鋸歯状）	ナデ	Ⅶ	
	409	J−7	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	明赤褐	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	Ⅷ	
	410	J−8	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	Ⅷ	
	411	J−8	Ⅳ	胴部	褐	明赤褐	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	Ⅷ	
	412	J−8	Ⅳ	底部	明褐	赤褐	○	○	○		良	貝殻条痕文	ナデ	Ⅷ	
	413	H−11	Ⅳ	口縁部	明赤褐	黄褐	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	Ⅸ	
	414	H−11	Ⅳ	胴～底部	にぶい赤褐	明赤褐	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	Ⅸ	
	415	J−5	Ⅳ	胴部	暗灰黄	明黄褐	○	○	○		良	山形押型文	ナデ	Ⅹ	
	416	J−8	Ⅳ	胴部	にぶい黄	橙	○	○			良	楕円押型文	ナデ	Ⅹ	
	417	J・K−10	Ⅳ	胴部	黒褐	黒褐	○	○			良	楕円押型文	ケズリ後ナデ	Ⅹ	
	418	J−10	Ⅲ	胴部	褐灰	褐	○	○			良	楕円押型文	ナデ	Ⅹ	
	419	J−10	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	楕円押型文	ケズリ後ナデ	Ⅹ	
	420	K−4	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	網目撚糸文	ナデ	Ⅺ	
	421	G−7	Ⅳ	胴部	黄褐	明褐	○	○			良	網目撚糸文	ナデ	Ⅺ	
	422	J−10	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	褐	○	○			良	楕円押型文	ナデ	Ⅹ	
	423	G−7	Ⅳ	頸部	橙	橙	○	○			良	微粒突帯	ナデ	Ⅺ	壺
	424	H−6	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	明褐	○	○			良	微粒突帯	ナデ	Ⅺ	壺
	425	J−5	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄	○	○			良	区画内条痕	ケズリ	Ⅺ	



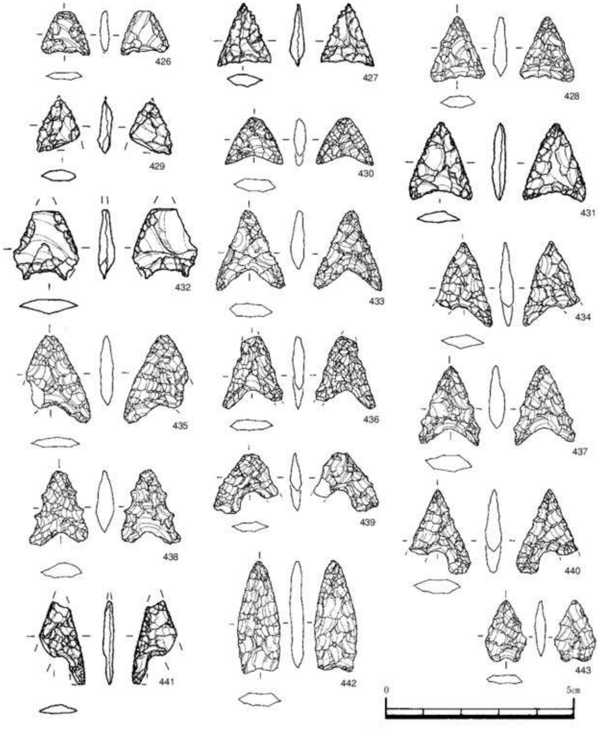
第49図　Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ・Ⅺ類土器

（２）石器（第50図～第59図）

石器は石鏃・石斧・スクレイパー・礫器・磨石・敲石・凹石・砥石状石器・石皿等が出土している。

石鏃（第50図）

石鏃は18点が出土している。素材は黒曜石・頁岩・チャート・玉髄等である。農業開発総合センター遺跡群の統一した分類（21頁・第13図）で見ると，426～428はＡ－ａ－ａ類，429～432はＡ－ａ－ｂ類，433～438はＡ－ａ－ｃ類，439・440はＡ－ａ－ｄ類，442はＡ－ｃ－ｄ類，443はＣ－ｃ－ｄ類，441はＢ－ａ－ｂ類に分類される。437・438は剥離が強く鋸歯状を呈する。いずれも両面交互剥離による丁寧な作りであるが，438は剥離面を大きく残している。



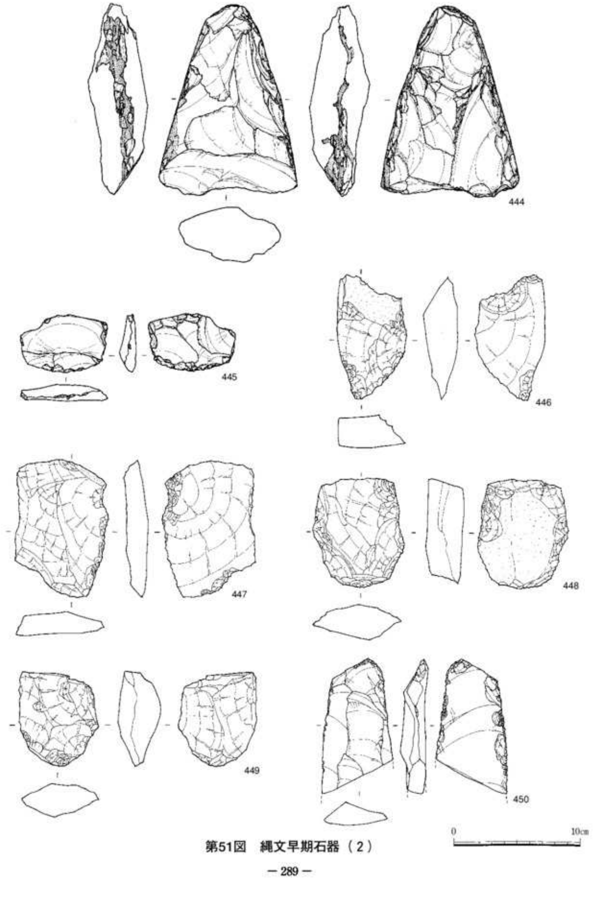
第50図　縄文早期石器（１）

石斧（第51図）

444は石斧である。刃部を欠損するやや大型の打製石斧でバチ形を呈する。両面の一部及び側面には研磨痕が認められる。頁岩を素材とする。

スクレイパー（第51図・第52図）

スクレイパーは８点出土しているがほとんどが頁岩を素材とするものである。445は横長剥片で両面交互剥離による刃部を作る。446は片面の剥離であ



第51図　縄文早期石器（２）

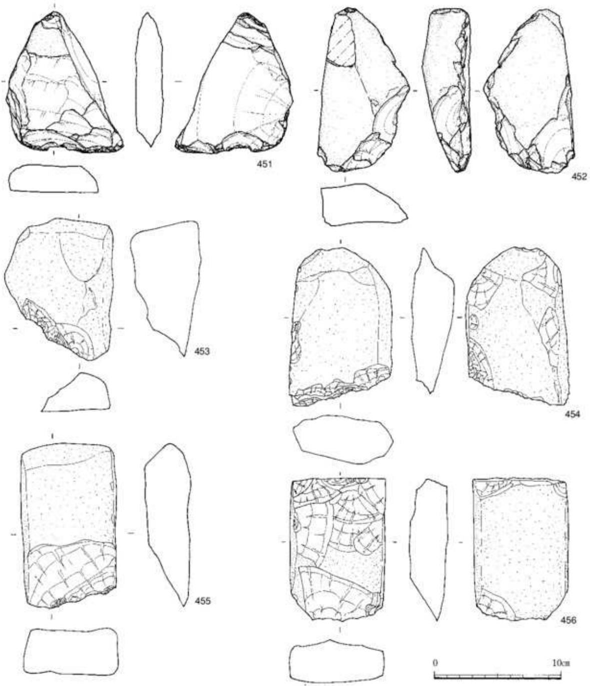
る。447は側面に刃部を有する。448は両側面に粗い剥離の刃部を有する。450は縦長剥片の素材を利用し，側面に細かな剥離を施す。451・452は礫器に近いものである。

礫器（第52図・第53図）

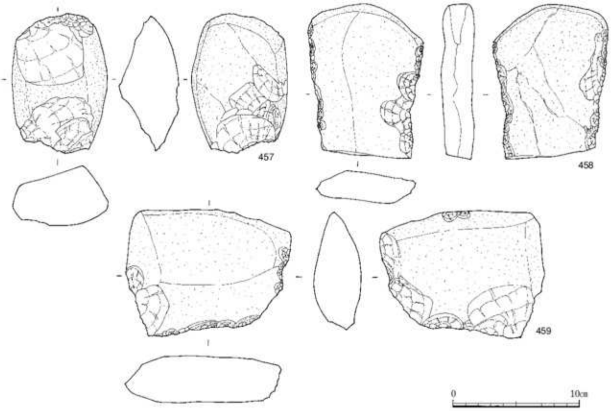
礫器は自然礫の一部を粗い剥離により刃部とするもので7点が出土している。頁岩・砂岩・安山岩を素材とする。453～457は縦長で下辺に刃部を有する。458は両側面に刃部を有する。459は横長で片側面と下辺に刃部を有する。

磨石（第54図～第57図）

磨石としたものには28点が見られるが，磨石だけの機能をもつもの（460～476）。磨石と敲石の機能を持つもの（477～479）。磨石と凹石の機能をもつ



第52図　縄文早期石器（3）



第53図　縄文早期石器（4）

縄文時代早期石器観察表1

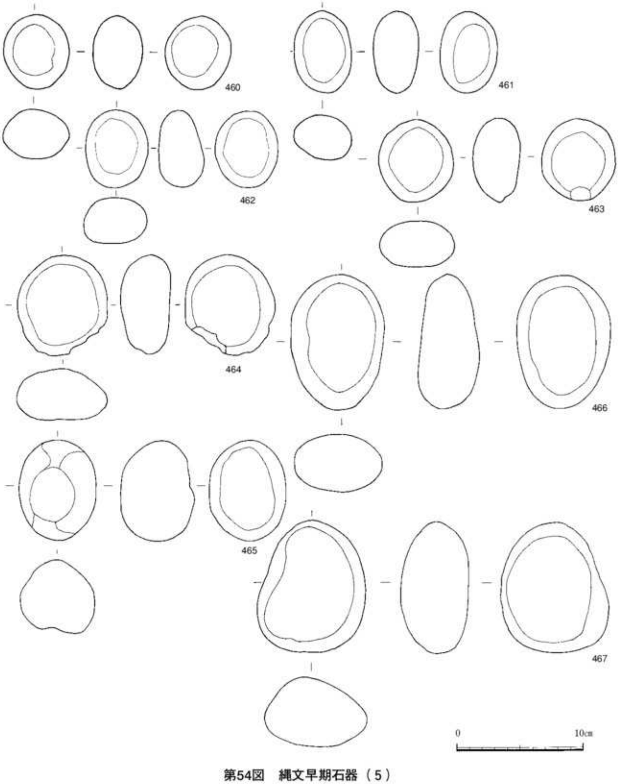
挿図番号	番号	器　種	出土区	層　位	石　材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第50図	426	剥片	H−7	Ⅳ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.20	1.30	0.20	0.31	
	427	打製石鏃	J−13	Ⅷ	頁岩	1.70	1.40	0.40	0.50	
	428	打製石鏃	H−7	Ⅳ	黒曜石(三船)	1.75	1.50	0.35	0.62	
	429	打製石鏃	I−12	Ⅷ	黒曜石(上牛鼻)	(1.40)	(1.10)	0.30	0.50	
	430	打製石鏃	−	−	頁岩	1.20	1.50	0.35	0.40	
	431	打製石鏃	K−5	Ⅷ	珪質頁岩	2.10	1.70	0.40	1.10	
	432	打製石鏃	J−11	Ⅳ	黒曜石(上牛鼻)	(1.90)	1.70	0.40	1.10	
	433	打製石鏃	I−5	Ⅳ	玉髄	2.10	1.80	0.40	0.76	
	434	打製石鏃	H−6	Ⅳ	頁岩	2.20	1.50	0.40	0.66	
	435	打製石鏃	H−6	Ⅳ	黒曜石(針尾)	2.35	1.60	0.35	0.89	
	436	打製石鏃	H−6	Ⅳ	黒曜石(針尾)	1.90	1.60	0.30	0.63	
	437	打製石鏃	H−7	Ⅳ	黒曜石(針尾)	2.10	1.60	0.45	0.82	
	438	打製石鏃	H−7	Ⅳ	黒曜石(針尾)	2.00	1.50	0.50	0.86	
	439	打製石鏃	H−6	Ⅳ	黒曜石(針尾)	1.60	1.70	0.30	0.52	
	440	打製石鏃	H−6	Ⅳ	チャート	2.30	1.60	0.50	0.96	
	441	打製石鏃	J−5	Ⅳ	黒曜石(針尾)	2.30	1.10	0.30	0.60	
	442	打製石鏃	H−6	Ⅳ	頁岩	2.80	1.10	0.30	1.17	
	443	打製石鏃	H−7	Ⅳ	玉髄	1.65	1.10	0.25	0.39	
第51図	444	打製石斧	J−8	Ⅳ	ホルンフェルス	15.15	10.95	4.75	667.00	
	445	スクレイパー	J−8	Ⅳ	頁岩	6.90	4.50	1.30	40.03	
	446	スクレイパー	H−7	Ⅳ	頁岩	9.60	5.40	2.60	151.00	
	447	スクレイパー	H−6	Ⅳ	頁岩	10.70	7.00	1.70	166.50	
	448	スクレイパー	H−6	Ⅳ	頁岩	8.40	6.90	2.65	227.50	
	449	スクレイパー	H−6	Ⅳ	頁岩	7.20	6.00	3.20	184.50	
	450	スクレイパー	J−8	Ⅳ	ホルンフェルス	(10.65)	(5.60)	2.00	117.10	
第52図	451	スクレイパー	J−10	Ⅳ	頁岩	11.15	9.30	2.30	284.00	
	452	スクレイパー	H−13	Ⅷ	頁岩	12.70	6.70	4.00	375.00	
	453	礫器	H−4	Ⅳ	頁岩	10.80	8.40	5.40	555.40	
	454	礫器	H−4	Ⅳ	頁岩	11.80	8.00	3.30	429.50	
	455	礫器	H−15	Ⅳ	頁岩	12.80	7.90	4.10	640.40	
	456	礫器	H−7	Ⅳ	頁岩	11.20	7.40	3.30	439.00	
第53図	457	礫器	H−13	Ⅳ	頁岩	11.00	7.45	4.70	431.50	
	458	礫器	H−6	Ⅳ	砂岩	12.00	9.00	2.40	390.00	
	459	礫器	H−5	Ⅳ	安山岩	10.00	12.70	3.70	650.00	

もの（480～487）がある。素材は砂岩及び安山岩である。477は上辺に敲打痕が見られる。

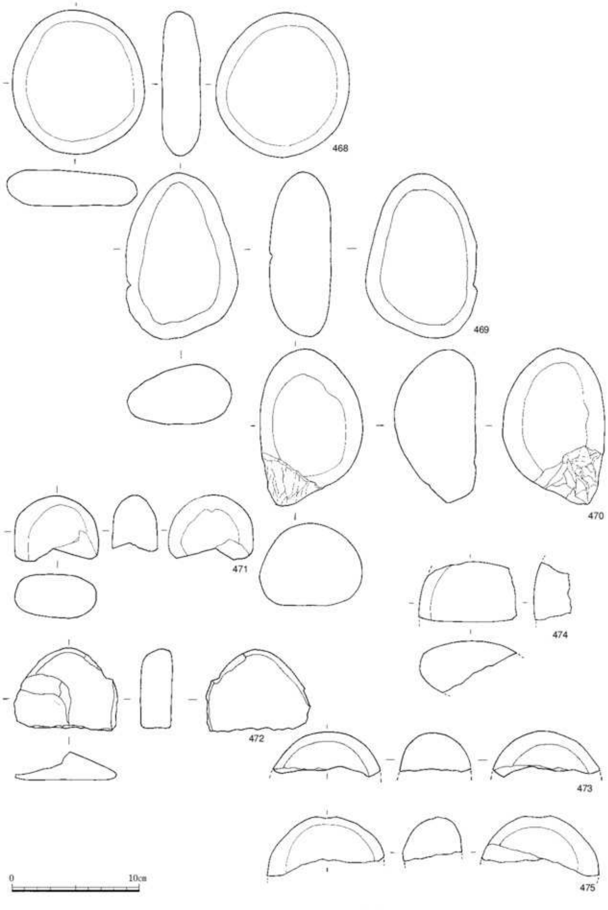
478・479は上辺から側面の一部にかけて敲打痕が見られる。480～482は片面に凹みがあり，483～486は両面に凹みがある。また，487は片面に凹みがあり，側面には敲打痕が見られるものである。

砥石（第57図）

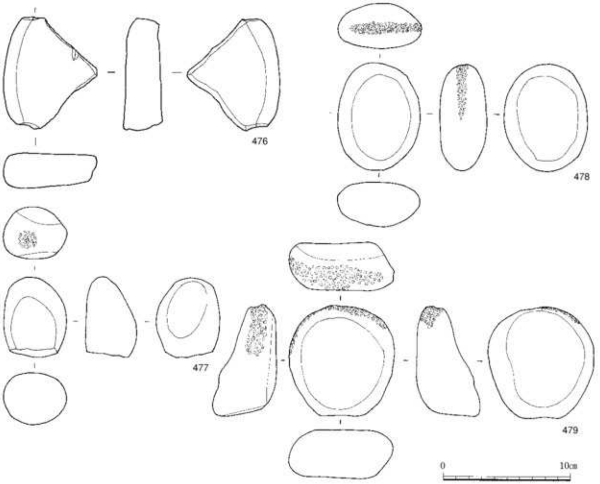
砥石としたものは1点だけである。488は砂岩を素材とした扁平な礫で，表面に著しい研磨の痕跡が認められる。



第54図　縄文早期石器（5）



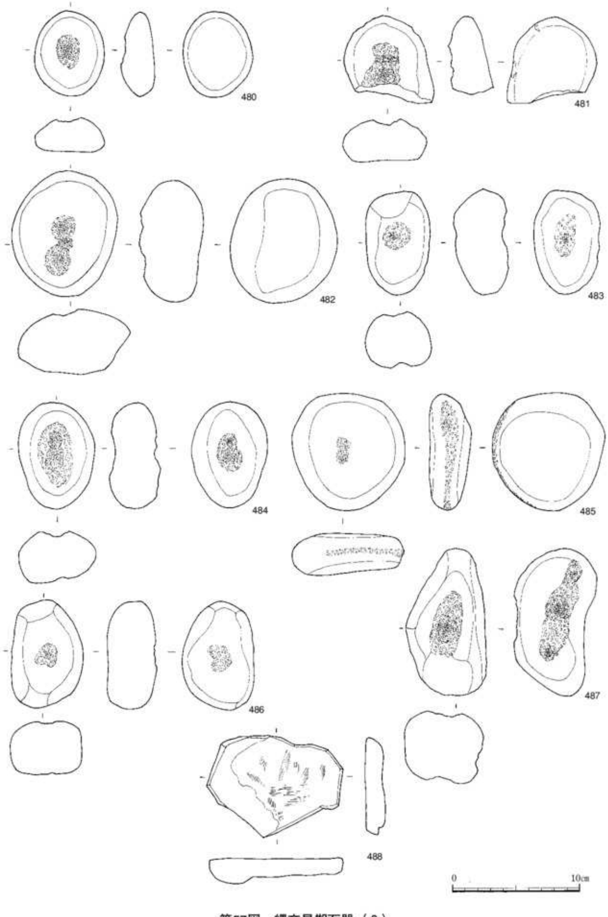
第55図　縄文早期石器（６）



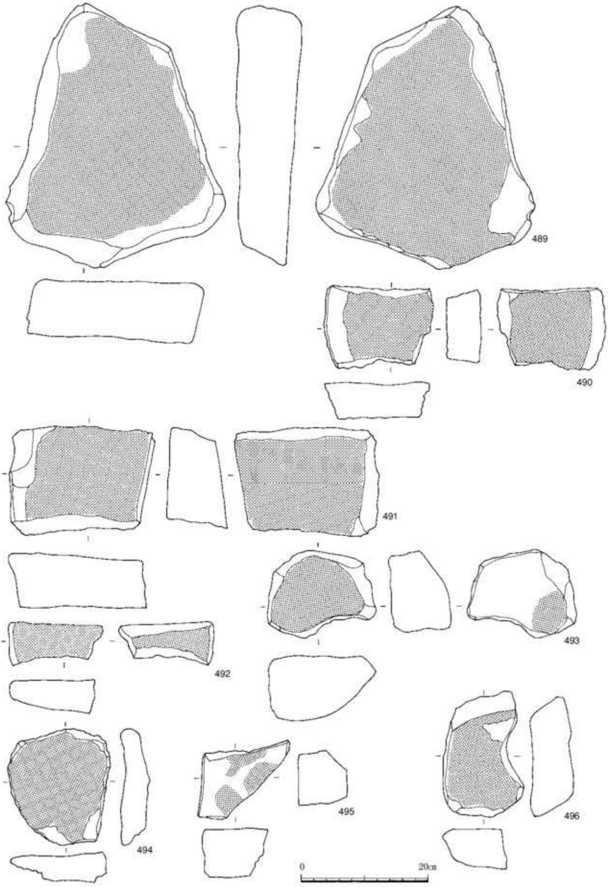
第56図　縄文早期石器（7）

縄文時代早期石器観察表 2

挿図番号	番号	器　種	出土区	層　位	石　材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第54図	460	磨石	H−6	Ⅳ	安山岩	5.85	5.20	4.00	149.00	
	461	磨石	H−6	Ⅳ	砂岩	6.45	4.50	3.50	128.40	
	462	磨石	I−5	Ⅶ	砂岩	6.10	5.00	3.60	157.50	
	463	磨石	H−7	Ⅳ	砂岩	6.55	5.80	3.60	185.00	
	464	磨石	H−6	Ⅳ	砂岩	7.90	7.15	3.95	295.50	
	465	磨石	H−11	Ⅳ	砂岩	7.90	6.00	5.90	340.00	
	466	磨石	H−7	Ⅳ	砂岩	10.60	7.30	4.80	496.00	
	467	磨石	J−8	Ⅳ	砂岩	10.04	8.50	5.35	568.50	
第55図	468	磨石	H−5	Ⅳ	安山岩	11.30	10.45	2.90	572.50	
	469	磨石	−	Ⅴ	砂岩	13.00	8.70	4.80	739.50	
	470	磨石	H−13	Ⅳ	保留	12.01	8.05	6.40	868.00	
	471	磨石	H−5	Ⅳ	砂岩	4.75	6.55	3.50	144.50	
	472	磨石	H−14	Ⅳ	砂岩	6.40	8.15	2.50	132.50	
	473	磨石	H−6	Ⅳ	安山岩	3.00	8.50	5.50	167.00	
	474	磨石	H−6	Ⅳ	砂岩	4.70	7.60	3.70	150.00	
	475	磨石	H−7	Ⅳ	安山岩	3.50	8.80	4.60	184.00	
第56図	476	磨石	H−6	Ⅳ	砂岩	8.80	7.30	2.70	233.00	
	477	磨石	H−6	Ⅳ	砂岩	6.30	4.95	4.20	166.50	
	478	磨石	G−13	Ⅳ	砂岩	8.40	6.55	3.60	272.00	
	479	磨石	J−4	Ⅳ	砂岩	8.70	8.30	4.55	477.00	



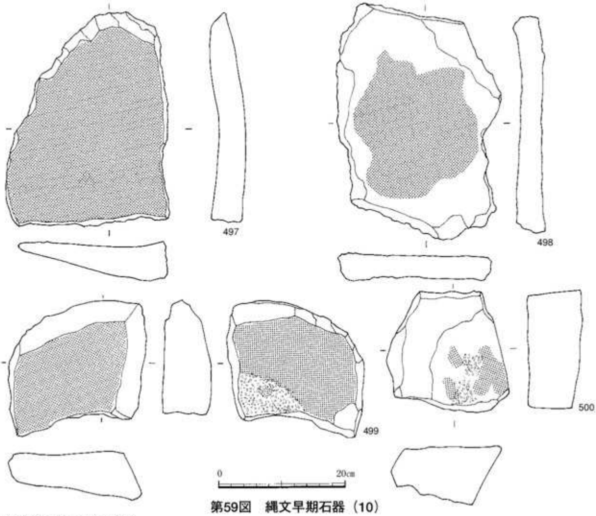
第57図　縄文早期石器（8）



第58図　縄文早期石器（9）

石皿（第58図・第59図）

石皿は12点出土している。素材は安山岩・砂岩・花崗岩である。磨耗した作業面が両面にあるもの（489～493，499）と片面のもの（494～498，500）がある。499・500は作業面の一部に敲打された痕跡が認められる。



第59図　縄文早期石器（10）

縄文時代早期石器観察表3

挿図番号	番号	器種	出土区	層位	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第57図	480	磨石	J−8	Ⅳ	砂岩	6.65	5.45	2.65	127.00	
	481	磨石	H−6	Ⅳ	砂岩	6.25	6.70	3.50	205.00	
	482	磨石	H−6	Ⅳ	砂岩	9.80	8.10	5.10	505.50	
	483	磨石	−	Ⅳ	砂岩	8.20	5.50	4.10	239.50	
	484	磨石	H−6	Ⅳ	砂岩	8.30	6.00	3.30	262.50	
	485	磨石	H−6	Ⅳ	砂岩	9.20	8.80	3.20	363.50	
	486	磨石	G−13	Ⅳ	砂岩	8.40	5.55	4.15	335.00	
	487	磨石	H−5	Ⅳ	安山岩	11.60	6.20	6.30	582.00	
	488	砥石	H−13	Ⅳ	砂岩	8.00	10.60	2.00	176.00	
第58図	489	石皿	H−5	Ⅳ	砂岩	41.00	34.40	9.20	19.6.00	
	490	石皿	H−6	Ⅳ	花崗岩	12.80	16.80	5.60	1940.00	
	491	石皿	H−6	Ⅴ	安山岩	16.80	21.80	9.80	6120.00	
	492	石皿	H−5	Ⅴ	砂岩	6.80	14.90	5.25	575.00	
	493	石皿	−	−	花崗岩	13.70	17.10	10.00	2900.00	
	494	石皿	H−6	Ⅳ	花崗岩	18.20	16.00	4.60	1540.00	
	495	石皿	−	−	安山岩	10.70	13.20	9.90	1325.50	
	496	石皿	−	−	砂岩	19.00	12.80	6.50	2215.50	
第59図	497	石皿	H−7	Ⅳ	安山岩	32.70	25.20	5.70	5400.00	
	498	石皿	−	−	安山岩	36.80	25.70	4.90	4900.00	
	499	石皿	H−7	Ⅳ	砂岩	18.80	21.00	8.00	4550.00	
	500	石皿	H−7	Ⅳ	砂岩	19.10	18.20	8.85	4600.00	

2　縄文時代後期の調査成果

縄文時代後期では土器が１点出土したのみで，遺構は検出されなかった。501はⅫ類土器としたものである。口縁端部を欠損するが，断面が三角形状に肥厚するものである。横位の凹線文と凹線文の間にヘラ状施文具による刺突文が施されている。また，その下位にヘラによる刻目が施されている。内面は貝殻条痕が見られる。

第60図　Ⅻ類土器

3　縄文時代晩期の調査成果

（1）遺構（第61図）

晩期の遺構は上部の層が削平されていることもあってか少ない。Ｉ－14区，Ｊ－13区において，農業開発総合センター遺跡群においてよく見られる柱穴列（柱穴が３～６個一列に並んでいる）が３基検出されたのみである。

１号柱穴列（第61図）

Ｉ－14区において検出されたもので，４個の柱穴からなる。主軸はほぼ南北方向でＮ－18度－Ｗである。全長4.4ｍで，各柱穴間はほぼ1.3ｍである。柱穴の径は柱穴１は12㎝，柱穴２～４は16㎝と小さめである。深さは0.2～0.4ｍで不揃いである。埋土は黒褐色土で堅く中世の掘立柱建物跡の柱穴の埋土とは色調共合わせて判別可能である。

２号柱穴列（第61図）

Ｉ－14区において検出されたもので，３個の柱穴からなる。主軸はほぼ南北方向でＮ－28度－Ｗである。全長4.3ｍで，各柱穴間はほぼ２ｍである。柱穴の径は柱穴は20㎝，深さは30～36㎝である。埋土は柱穴列１号と同様である。

３号柱穴列（第61図）

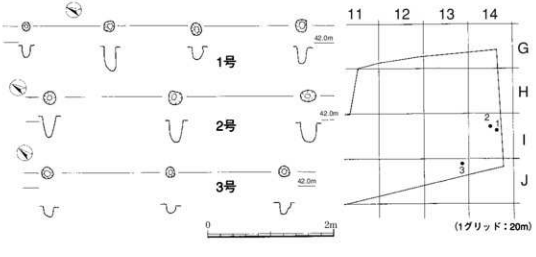
Ｊ－13区において検出されたもので，３個の柱穴からなる。主軸はほぼ南北方向でＮ－32度－Ｗである。全長3.9ｍで，各柱穴間はほぼ1.9ｍである。柱穴の径は柱穴は18㎝，深さは14～18㎝と浅いが上層が削平されていることに起因するものと思われる。埋土は柱穴列１号・２号と同様である。

（2）遺物（第62図～64図）

遺物は土器と石器が出土しているが，出土量は多くない。

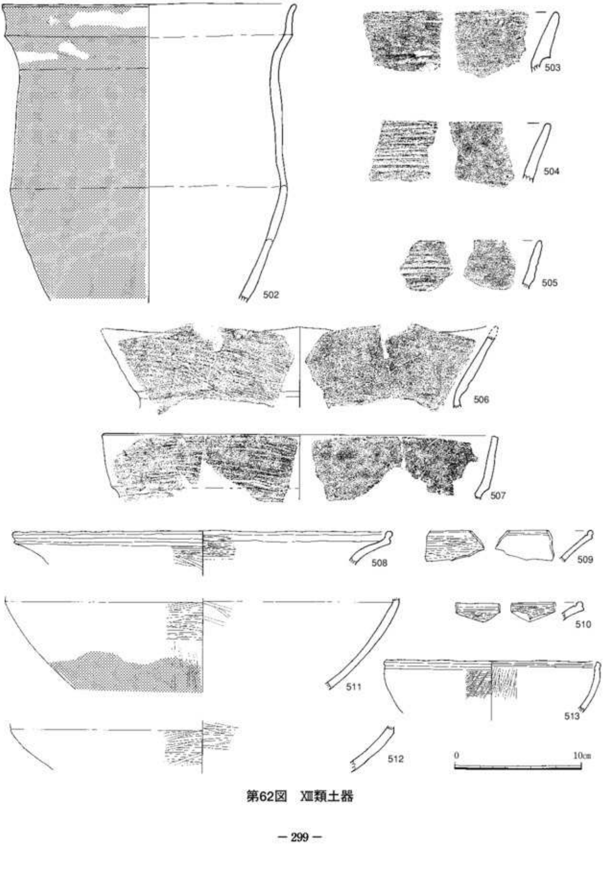
土器（第62図）

土器は深鉢形土器と浅鉢形土器合わせて12点を図化した。502～507は深鉢形土器，508～513は浅鉢形土器である。502は口縁部径23.2㎝を測るものである。胴部の屈曲部は弱く，わずかに内傾して頸部へ到るもので，口縁部はやや外反し，端部は丸くおさめるものである。503～507は外反する口縁部である。503はやや肥厚するもの，506は口縁部が波状になるもの，507は口縁部が直行気味である。



第61図　縄文時代晩期柱穴列

508～513は精製浅鉢形土器である。508は口縁部径30㎝を測るもので，509・510と同様に頸部の屈曲部から大きく外反する口縁部で，端部は上方へ短く立ち上げるものである。口縁部直下に沈線文を巡らし内面にも沈線文を廻らすものもある。511・512は胴部の屈曲部から底部近くの部位で，わずかに丸みを帯びる。513は底部から内湾しながら口縁部へ到るもので，やや深目の浅鉢形土器である。口縁端部はわずかに外反するものである。



第62図　XIII類土器

石器（第63図・第64図）

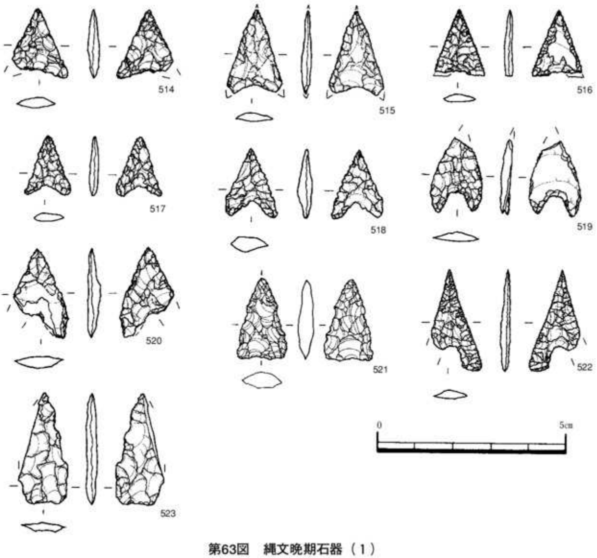
石器は石鏃・石斧・礫器・磨石などが出土しているが，それぞれ出土量は多くない。

石鏃（第63図）

石鏃は10点出土している。石材は黒曜石・頁岩・チャート・玉髄である。石鏃の分類については，本報告書での統一した分類図（21頁・第13図）に従うことにする。514はA－a－bタイプ，515・516はA－a－bタイプ，517・518はA－a－cタイプ，519・520はA－a－dタイプ，521はA－b－aタイプ，522はA－b－dタイプ，523はA－c－aタイプに分類される。また，519は剥片石鏃と思われる。

XII・XIII類土器観察表

挿図番号	番号	出土区	層位	部位	色調 内	色調 外	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	外面	内面	類	備考
60	501	H－6	Ⅲ	胴部	明赤褐	明赤褐	○	○			良	横線文・刻目・条痕	貝殻条痕文	XII	
第62図	502	K－5	Ⅳ(横転)	口縁～胴部	黄褐	明褐	○	○			良	ナデ	ナデ	XIII	内外面煤付着
	503	J－10	Ⅲ	口縁部	灰黄	浅黄	○	○			良	ナデ	ナデ	XIII	外面煤付着
	504	J－11	Ⅲ	口縁部	黒褐	暗褐	○	○			良	貝殻条痕文	ミガキ	XIII	
	505	I－16	Ⅲ	口縁部	黒褐	黒褐	○	○			良	貝殻条痕文	ミガキ	XIII	
	506	I－16	Ⅲ	口縁部	橙	明赤褐	○	○			良	条痕後ナデ	ナデ	XIII	
	507	H－6	Ⅲ	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	条痕後ナデ	ナデ	XIII	
	508	I－16	Ⅲ	口縁部	黒	暗褐	○	○			良	沈線・ミガキ	ミガキ	XIII	
	509	H－16	Ⅲ	口縁部	黒褐	黒褐	○	○			良	沈線・ミガキ	沈線・ミガキ	XIII	
	510	H－16	Ⅲ	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	沈線・ミガキ	沈線・ミガキ	XIII	
	511	H－7	Ⅲ	胴部	黄灰	にぶい黄	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	外面煤付着
	512	I－16	Ⅲ	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	513	I－16	Ⅲ	口縁部	褐灰	褐灰	○	○			良	沈線・ミガキ	沈線・ミガキ	XIII	



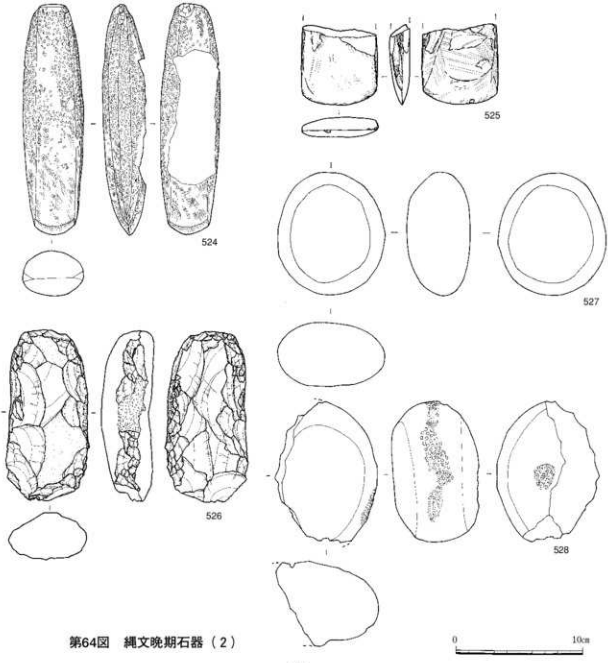
第63図　縄文晩期石器（１）

石斧・磨石（第64図）

石斧は３点が出土している。 524は基部・中間部・刃部の３つに割れていたものが接合したものである。全面を丁寧な敲打整形をした後で刃部を中心に研磨が施される。やや細身の石斧である。 525は磨製石斧である。全面に丁寧な研磨が施されている。526は打製石斧である。粗い剥離が施される。 527は磨石， 528は磨石と凹石，敲石の機能を備えたものである。

縄文時代晩期石器観察表

挿図番号	番号	器種	出土区	層位	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第63図	514	打製石鏃	H−6	Ⅳ	頁岩	1.80	1.50	0.30	0.50	
	515	打製石鏃	J−11	Ⅲ	頁岩	2.20	1.40	0.30	0.70	
	516	打製石鏃	J−8	Ⅲ	チャート	1.80	1.30	0.30	0.50	
	517	打製石鏃	I−4	Ⅲ	玉髄	1.60	1.20	0.30	0.20	
	518	打製石鏃	H−16	Ⅲ	黒曜石（針尾）	1.80	1.40	0.40	0.50	
	519	打製石鏃	J−10	Ⅲ	安山岩	2.00	1.40	0.30	0.60	
	520	打製石鏃	J−11	Ⅲ	黒曜石（針尾）	2.40	1.50	0.40	0.70	
	521	打製石鏃	H−6	Ⅲ	チャート	2.10	1.30	0.50	0.87	
	522	打製石鏃	J−11	Ⅲ	チャート	2.70	1.40	0.30	0.60	
	523	打製石鏃	J−11	Ⅲ	頁岩	3.00	1.30	0.30	1.10	
第64図	524	磨製石斧	J−10	Ⅲ	安山岩	18.20	4.80	(3.50)	414.00	
	525	磨製石斧	H−6	表	ホルンフェルス	(6.35)	(6.05)	(1.65)	94.40	
	526	打製石斧	H−6	表	安山岩	13.35	6.65	4.15	500.00	
	527	磨石	K−5	Ⅲ	安山岩	9.70	8.45	4.90	582.00	
	528	磨石	G−16	Ⅲ	安山岩	10.85	8.00	6.70	451.00	



第64図　縄文晩期石器（２）

第６節　中世・近世の調査成果

１　遺構

遺構は，掘立柱建物跡１棟が検出されているが，隣接の市堀遺跡の掘立柱建物跡群と一連のものとして考えられるものである。市堀遺跡では７棟の掘立柱建物跡が検出されている。2006年刊行の報告書「農業開発総合センター遺跡群Ⅱ，馬塚松遺跡・市堀遺跡・大門口遺跡」の市堀遺跡で３号掘立柱建物跡として報告されているものである。

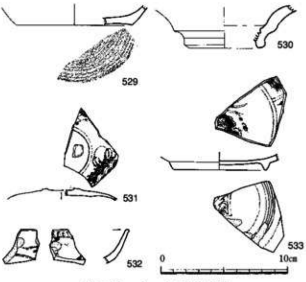
掘立柱建物跡は，２間×３間で主軸がほぼ東西方向である。東側・北側・西側に庇と思われる柱穴が見られるが，一部柱穴の無い部分がある。

２　遺物（第65図）

遺物は，土師器・青磁・磁器（染付）が出土しているが，５点と少ないものである。 529は土師器の皿と思われる。底部は糸切り離しによるものである。

530は青磁碗である。 531～533は染付である。

531は蓋で上面にはつまみがみられる。 533は碗の底部で底面には「うず福」が描かれる。 532は碗の口縁部である。



第65図　中・近世の遺物

第７節　小結

頭無迫田遺跡では旧石器時代から中世までの遺構・遺物が出土している。

旧石器時代では，ブロックが１箇所確認されている。また，落とし穴が１基検出されている。ブロック内ではチャートの礫の集積遺構も検出されている。また，接合資料も11例が確認されており，石器製作に係わるブロックと考えられる。石器はナイフ形石器・三稜尖頭器・台形石器・スクレイパー等が出土しているが，ナイフ形石器が小型化する新しい段階のものと思われる。

縄文時代早期では，集石遺構が10基検出されているが，どの型式の土器に伴うかは不明である。ただし質量共に他の型式を上回るⅤ類（石坂式土器）に伴うものと考えたい。

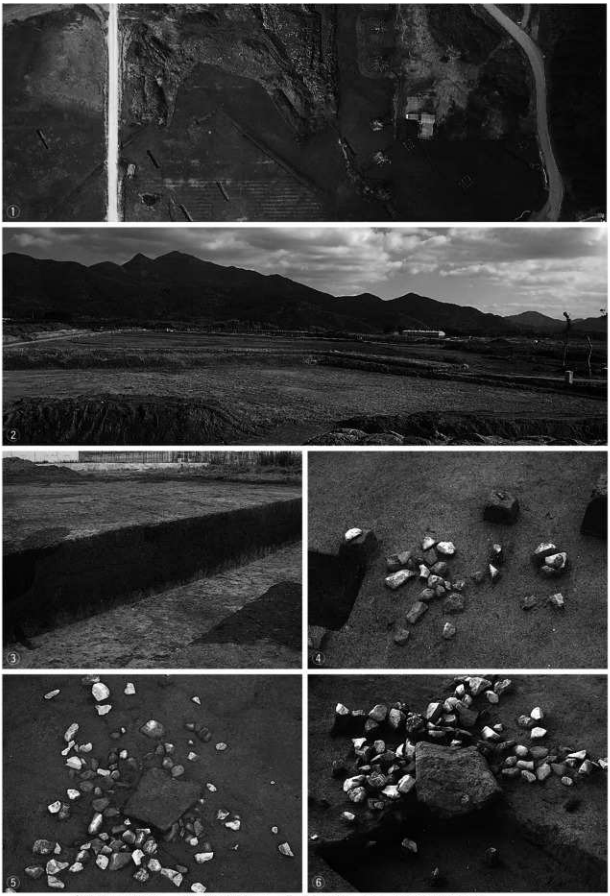
土器型式でみるとⅠ類土器からⅪ類土器まで11類に細分される。Ⅰ類は前平式土器，Ⅱ類は志風頭式土器，Ⅲ類は加栗山式土器，Ⅳ類は吉田式土器，Ⅴ類は石坂式土器，Ⅵ類は下剥峯式土器，Ⅶ類は辻タイプ，Ⅷ類は桑ノ丸式土器に比定される。Ⅸ類は円筒系条痕文土器とされていたものであるが，木崎康弘による中原Ⅲ式・Ⅳ式土器に類似する。また，Ⅹ類は押型文土器，Ⅺ類は塞ノ神式土器に比定されるものである。志風頭式土器には円筒土器の他に角筒土器及びレモン形土器も含まれる。加栗山式土器・吉田式土器にも角筒土器が含まれる。Ⅴ類の石坂式土器は多量に出土しており，口縁部が外反するもの，直行気味のもの，こぶ状突起を有するもの等変化に富んでおり，細分される可能性を含んでいる。Ⅵ～Ⅺ類は数点ずつの出土である。Ⅺ類の中には壺形土器も見られる。

縄文時代後期では，Ⅻ類が市来式土器に比定されるが１点のみの出土である。

縄文時代晩期では，農業開発総合センター遺跡群でよく見られる柱穴列が３基検出されている。この遺構も用途・性格が不明なものであるが，なんらかの住居と考えたい。土器についてみるとⅩⅢ類とした粗製の深鉢形土器と精製黒色研磨の浅鉢形土器が見られるが，出土量は少ないものである。入佐式土器に比定出来よう。

註１　熊本県文化財調査報告書第158集「蒲生・上の原遺跡」熊本県教育委員会1996年

写　真　図　版

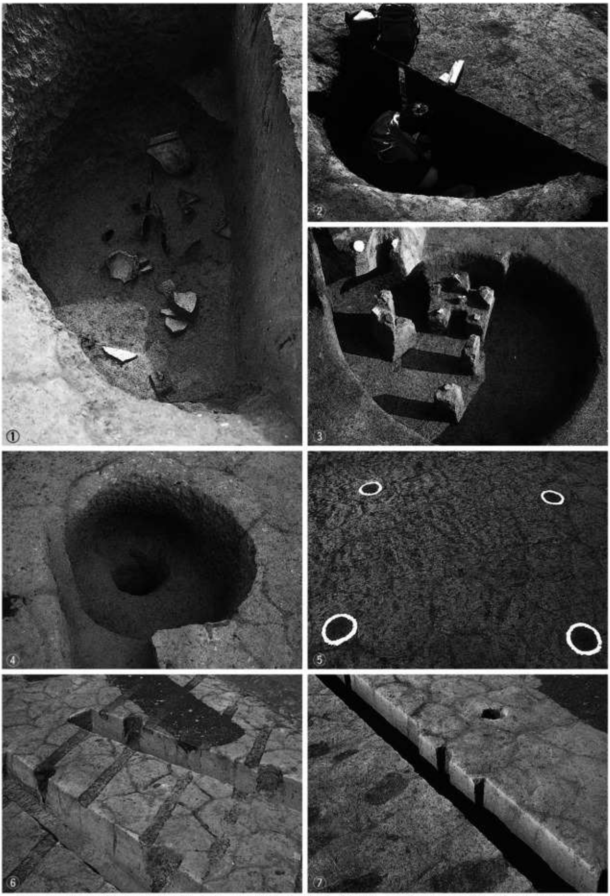


①遺跡空中写真　②遺跡遠景写真　③土層断面　④４号集石 検出状況
⑤２号集石検出状況　⑥２号集石 検出状況

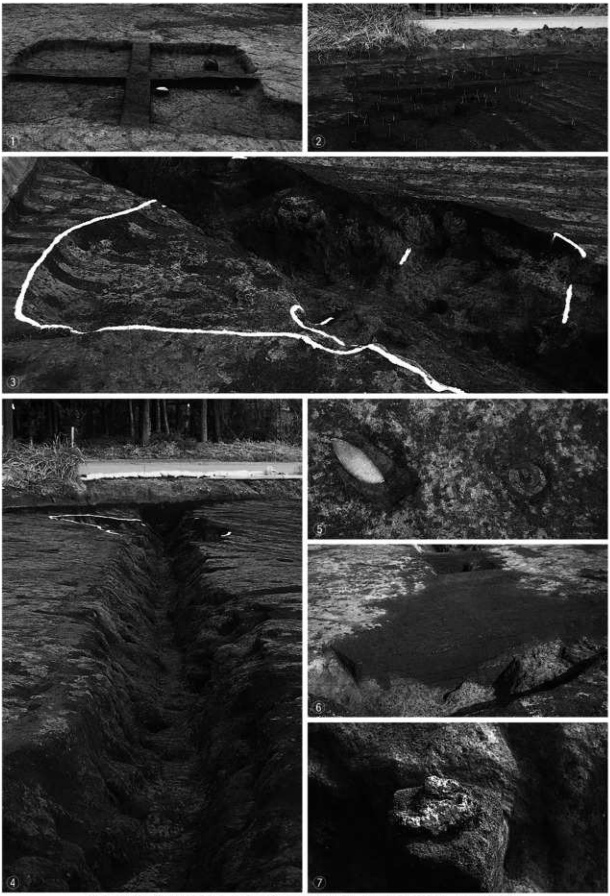
埋設土器1号

埋設土器2号

縄文時代晩期　埋設土器

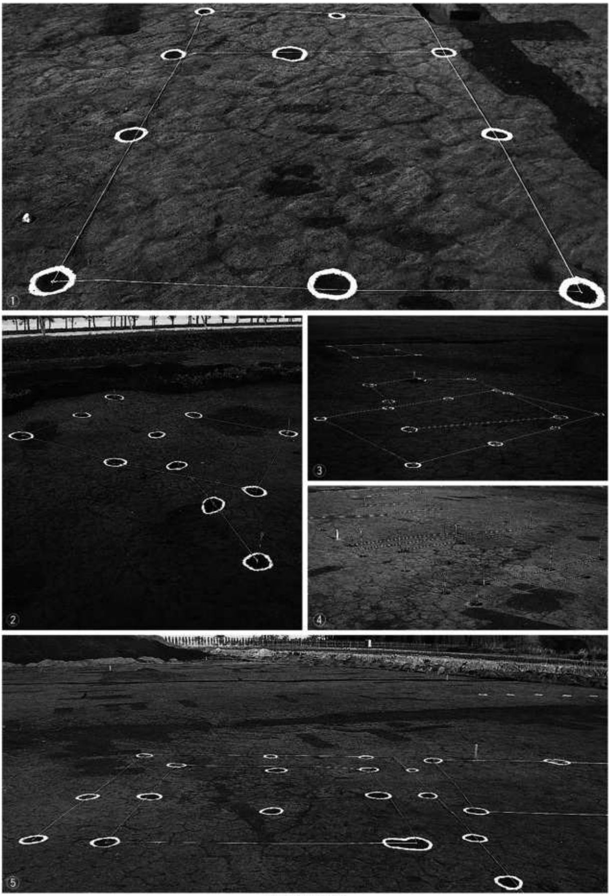


①1号土坑半裁遺物出土状況　②1号土坑サンプリング風景　③2号土坑完掘　④6号土坑完掘
⑤掘立柱建物跡検出状況　⑥掘立柱建物跡完掘　⑦柱穴列完掘（半裁）

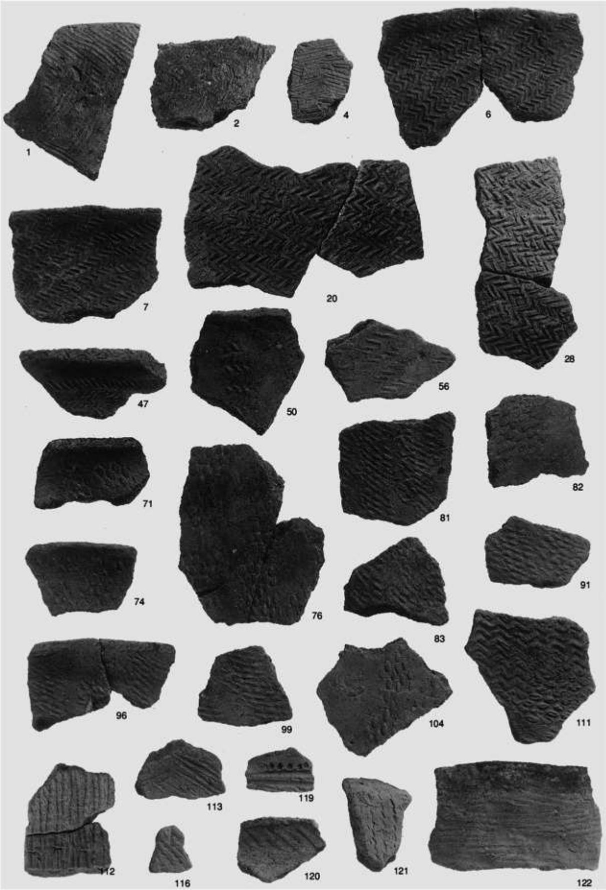


①竪穴状遺構土層断面　②溝内遺物出土状況　③竪穴状遺構　④溝3完掘
⑤溝6遺物出土状況　⑥溝3，4合流部断面　⑦鉄滓

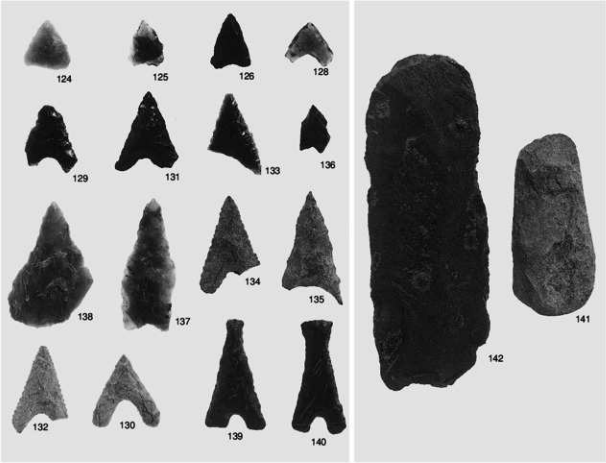
①～④溝状遺構　⑤・⑥掘立柱建物跡



掘立柱建物跡

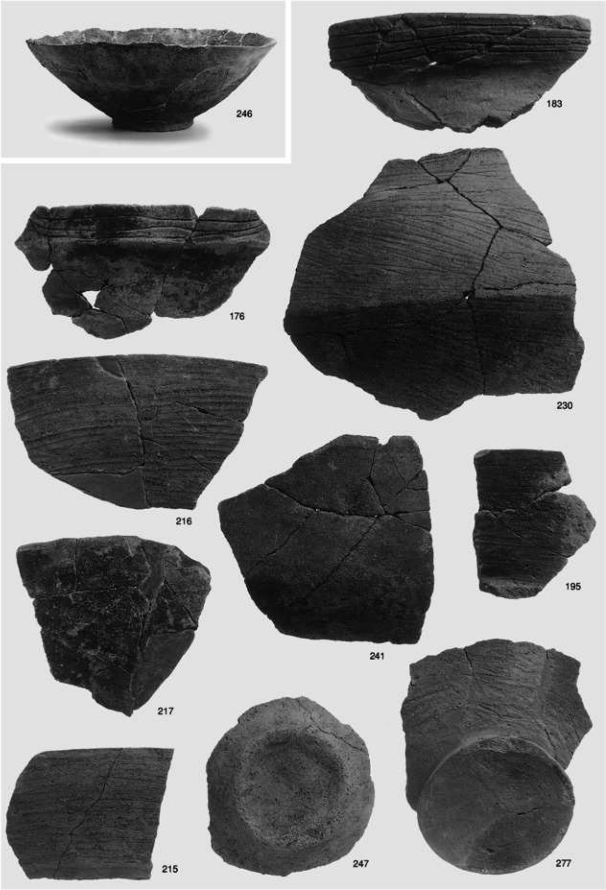

1
2
4
6
7
20
28
47
50
56
71
76
81
82
74
91
83
96
99
104
111
113
119
112
116
120
121
122

縄文時代早期土器



諏訪脇遺跡縄文時代早期石器

縄文時代中期・後期土器



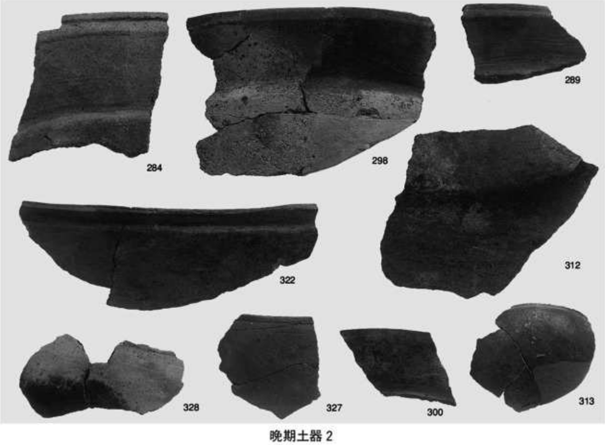
晩期土器 1

1号土坑内

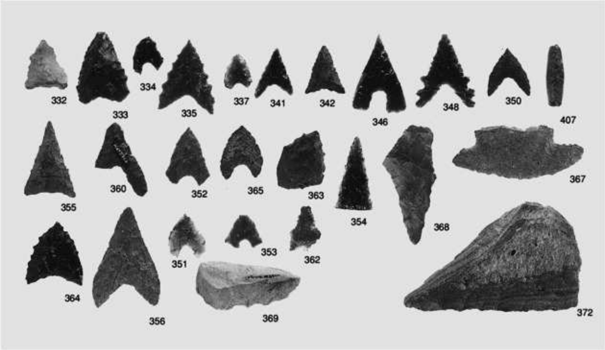
1号土坑内

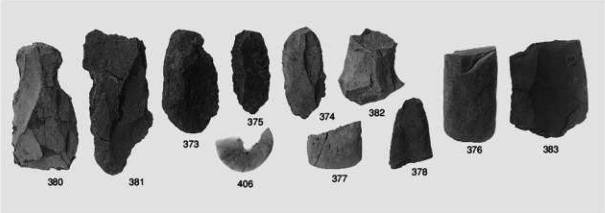
埋設土器1号

埋設土器2号

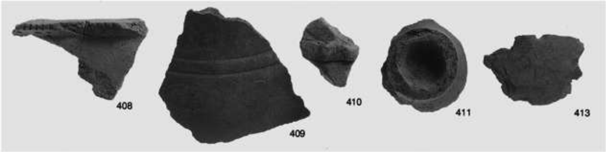


晩期土器2

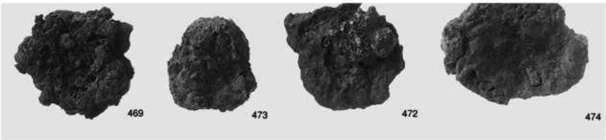

332
333
334
335
337
341
342
346
348
350
407
355
360
352
365
363
354
368
367
364
356
351
353
362
369
372


380
381
373
375
374
382
376
383
406
377
378

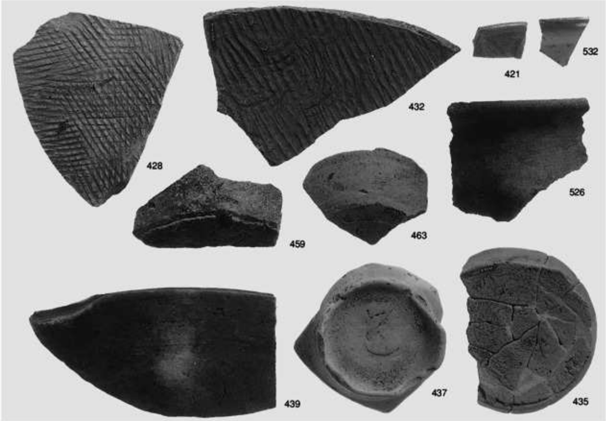
縄文時代晩期　石器



弥生・古墳時代遺物

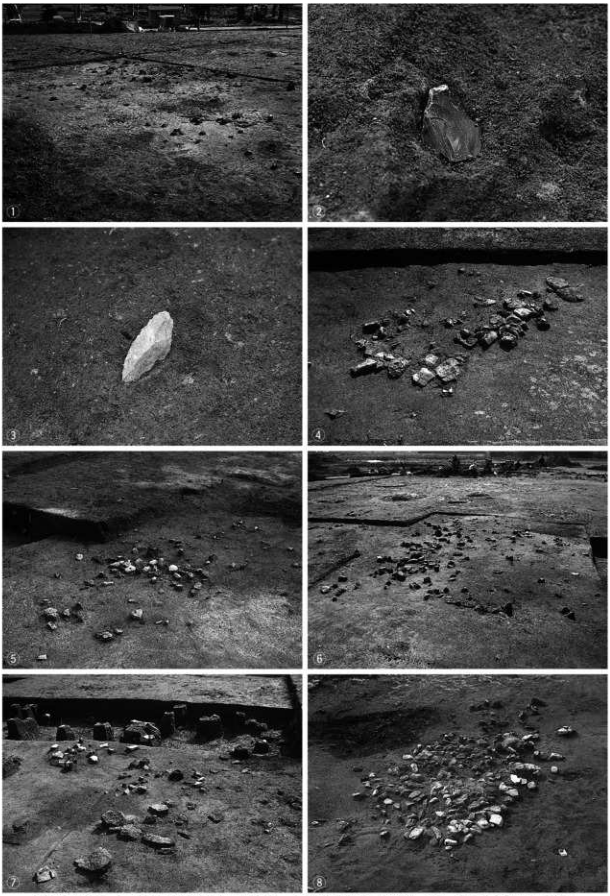


鉄滓

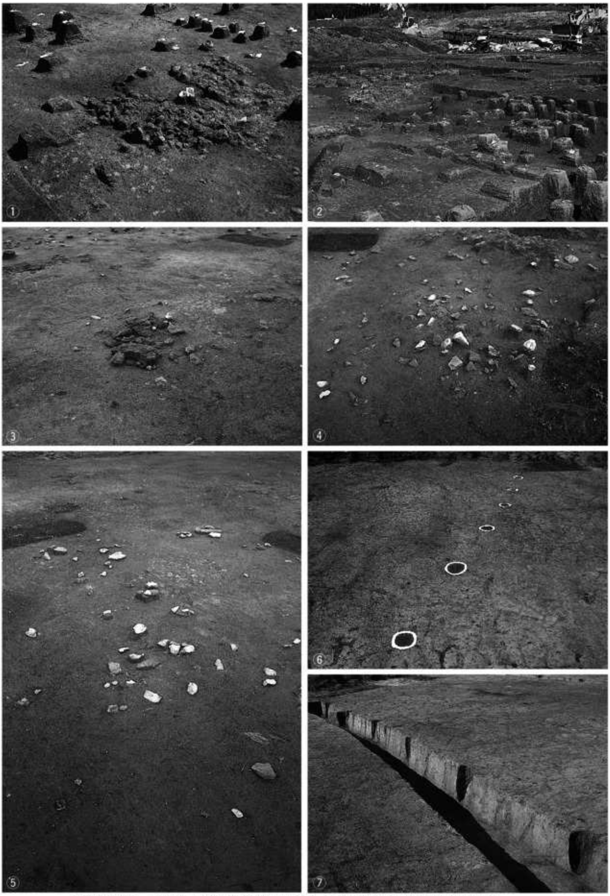


弥生・古墳時代・古代・中世遺物

東側調査区　①土層断面　②遺跡遠景　③旧石器時代遺物出土状況　④ナイフ形石器出土状況
⑤ハンマー出土状況　⑥石核出土状況　⑦作業風景
西側調査区　⑧土層断面

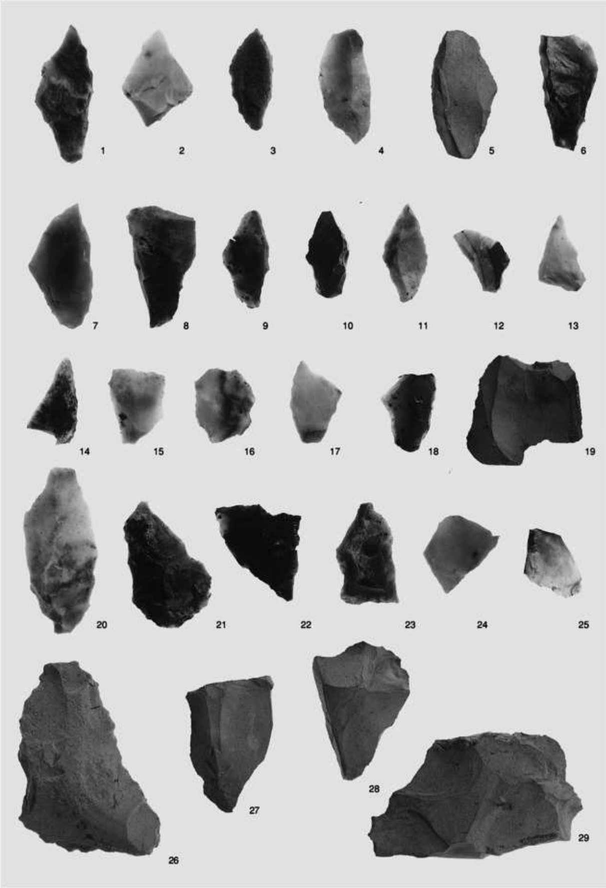


西側調査区　①旧石器時代遺物出土状況　②台形石器出土状況　③ナイフ形石器出土状況
④～⑧旧石器時代礫群検出状況

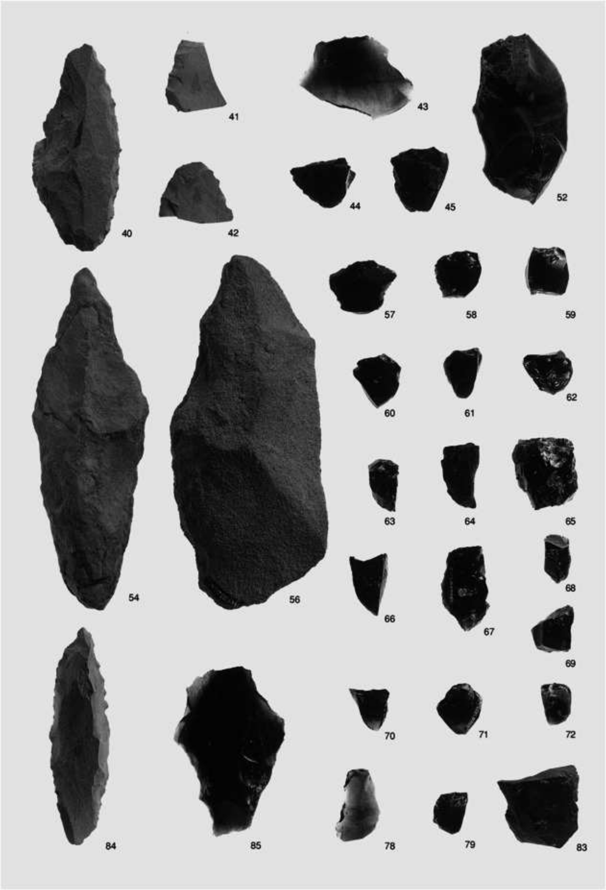


西側調査区　①旧石器時代礫群検出状況　②縄文時代早期遺物出土状況
③～⑤縄文時代早期集石検出状況　⑥・⑦柱穴列２・３検出状況

西側調査区　①縄文時代晩期土坑検出状況　②・③調査終了状況



旧石器時代石器1


40
41
42
43
44
45
52
54
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
78
79
83
84
85

旧石器時代石器 2

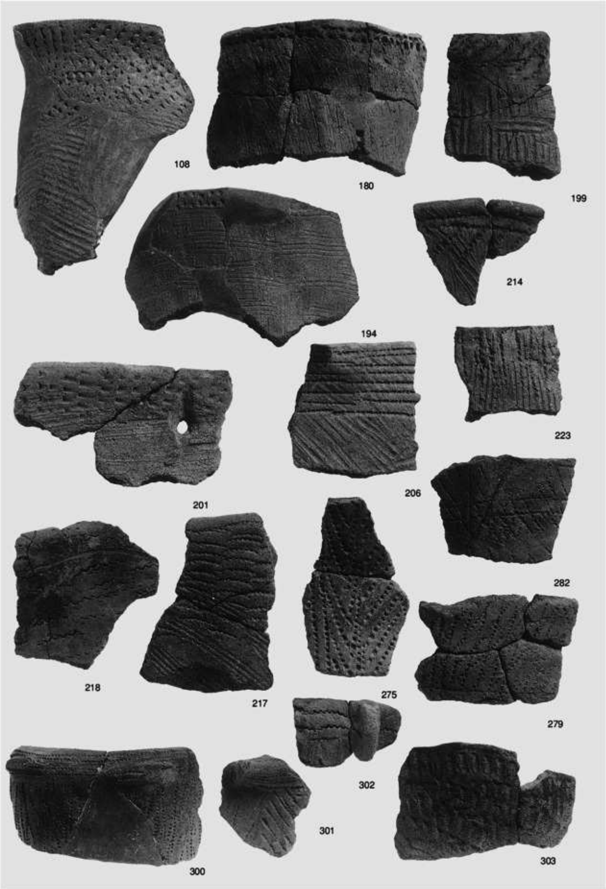
33

227

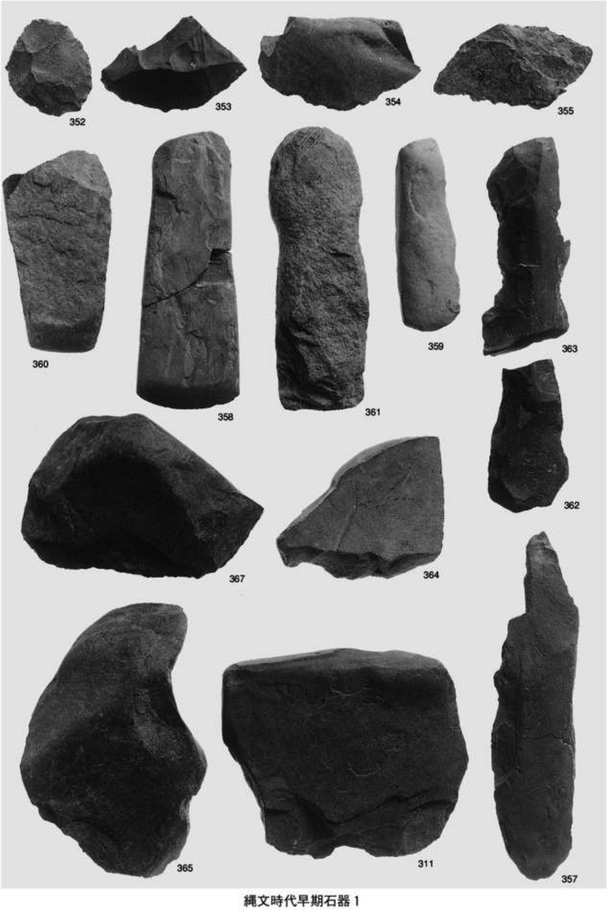
304

312

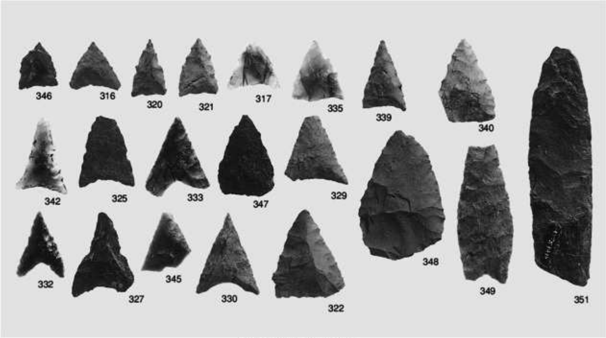
縄文時代早期土器１


108
180
199
194
214
201
206
223
282
218
217
275
279
302
301
300
303

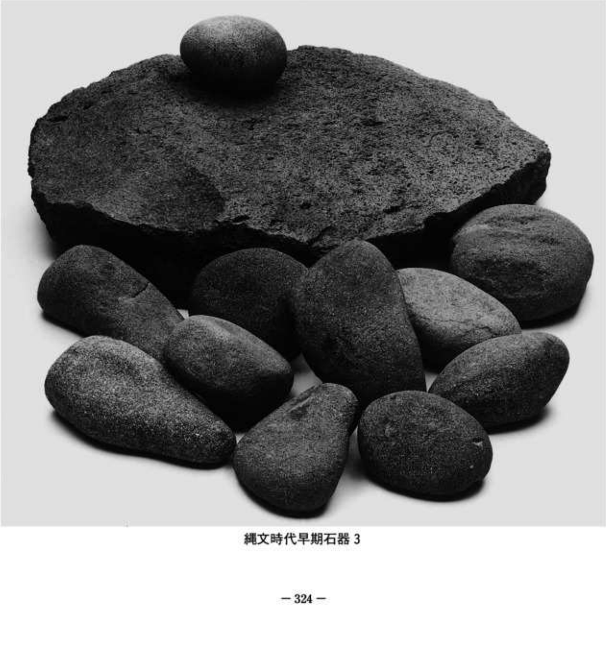
縄文時代早期土器 2



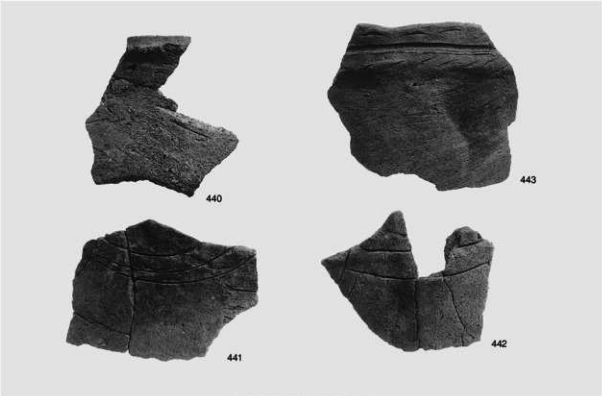
縄文時代早期石器 1



縄文時代早期石器 2



縄文時代早期石器 3


440
443
441
442

縄文時代中期・後期土器

450
451
452

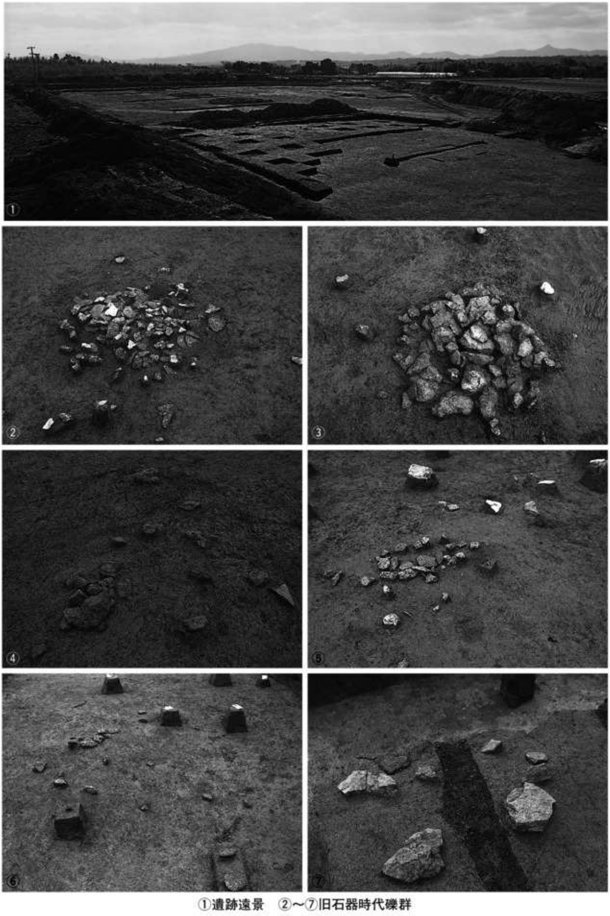
縄文時代晩期土坑内出土遺物１

444

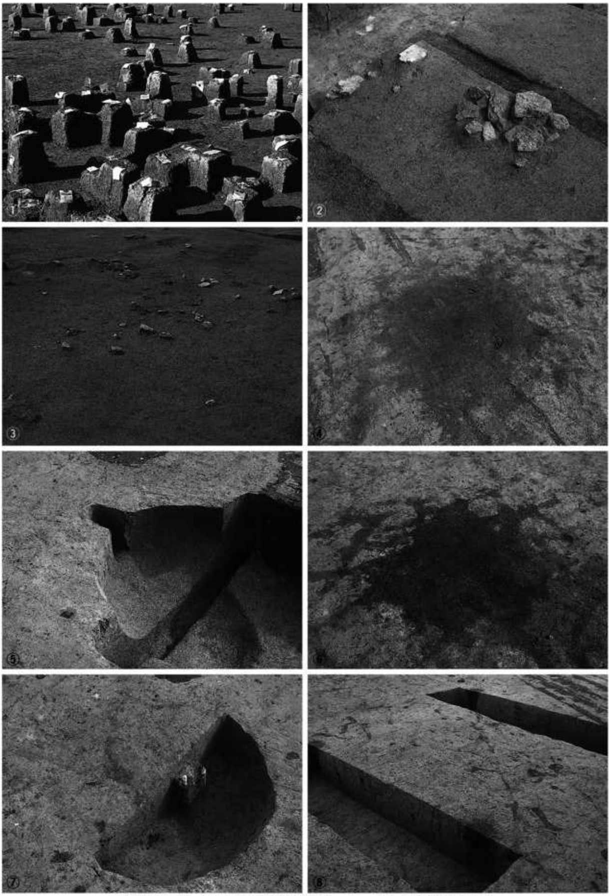
445

446

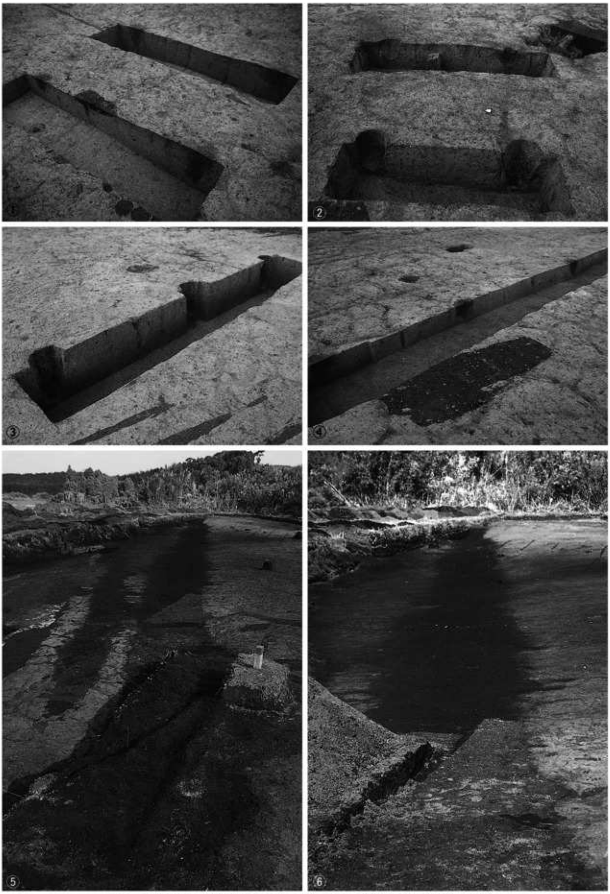
縄文時代晩期土坑内出土遺物 2



①遺跡遠景　②～⑦旧石器時代礫群

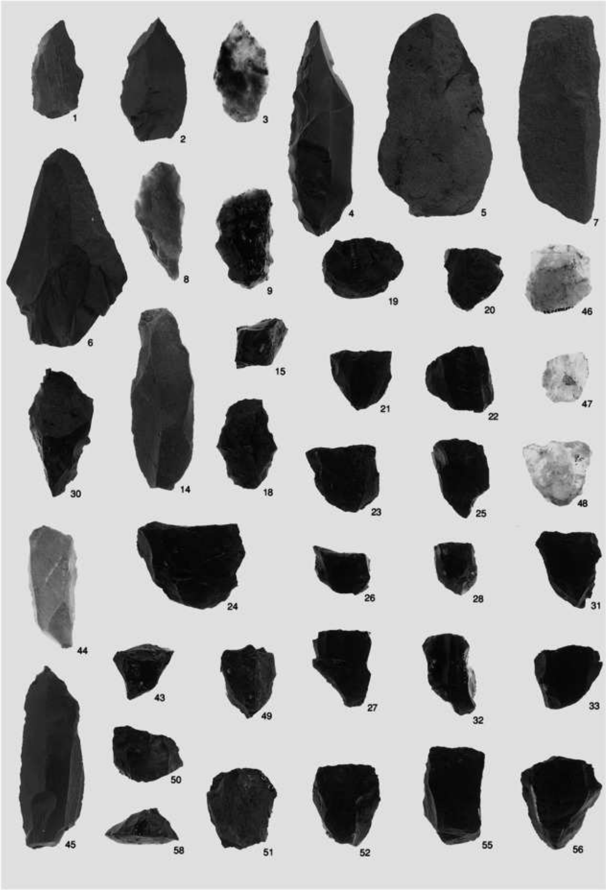


①建物集中区　②・③草創期集石1号・4号　④・⑤晩期土坑1号
⑥・⑦晩期土坑2号　⑧晩期堀立柱建物跡1号

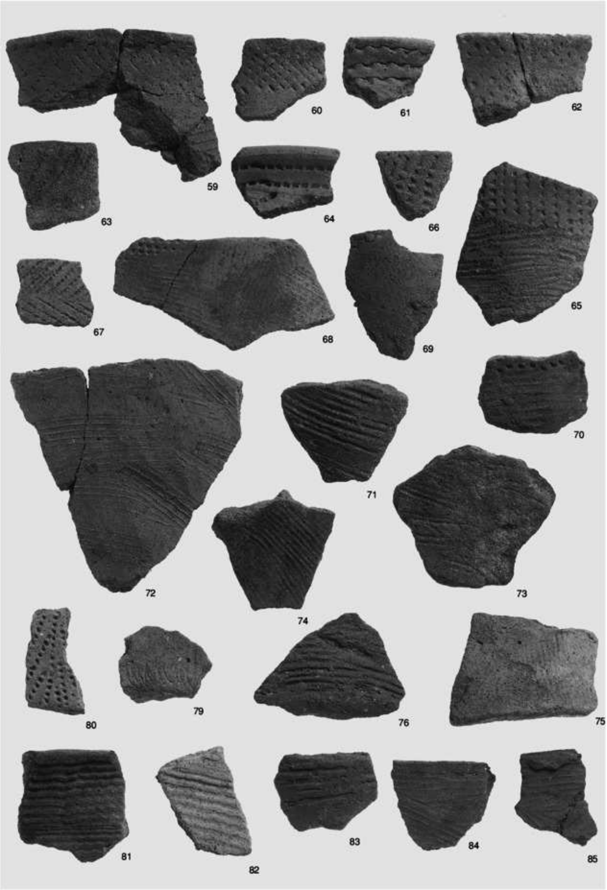


①・②晩期堀立柱建物跡2号・3号　③・④晩期柱穴列1号・2号
⑤・⑥溝状遺構検出状況

①～③溝状遺構断面　⑤溝状遺構内出土遺物　④・⑥古道


1
2
3
4
5
7
6
8
9
19
20
46
15
21
22
47
30
14
18
23
25
48
44
24
26
28
31
43
49
27
32
33
45
50
58
51
52
55
56

旧石器時代石器


59
60
61
62
63
64
66
65
67
68
69
70
71
72
73
74
80
79
76
75
81
82
83
84
85

縄文時代早期土器